

大阪大学総合学術博物館 年報 2009

大阪大学総合学術博物館
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館

年報 2009

はじめに

大阪大学総合学術博物館の『年報 2009』を刊行いたします。例年通り、まず 2009(平成 21)年度の博物館の活動の概要からご紹介します。

2009 年度の特徴としてあげられるのは、待兼山修学館の多目的ルームにおいて、特別展・企画展を 1 年間で 3 回行ったことです。

まず、2009 年 4 月 27 日から 7 月 11 日まで、第 4 回特別展「昭和 12 年のモダン都市へ—観光映画『大大阪観光』の世界—」を大阪歴史博物館、大学院文学研究科と協力して行いました。これは、当館の橋爪節也教授の大阪学に関するコレクションと研究の成果を展示したもので、同時に大阪市が製作した観光映画を上映し、期間中にミュージアムレクチャーも 5 回開催しました。昭和 12 年前後の大大阪時代を懐かしむオールド・ファンが大勢詰めかけ、入場者は 6,825 名に達しました。これを機に資料整理も進め、展覧会と同名の博物館叢書 No. 4 も刊行し、好評を博しています。

ついで、2009 年 10 月 1 日から 12 月 12 日まで、第 9 回企画展「維新派という現象『ろじ式』」を前衛劇団の維新派、大学院文学研究科、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、大阪大学 21 世紀懐徳堂と協力して開催しました。これは、通常の博物館展示と異なり、世界的に有名な維新派の舞台を思わせる実験的な展示空間を創りだし、参観者が劇場空間内で展示を体験できるようにしたもので、期間中にミュージアムレクチャーを 3 回、シンポジウムを 1 回、そして、修学館前の広場で維新派のパフォーマンスも 1 回おこないました。入場者は 4,771 名に上りました。この企画展でも、文学研究科の大学院生に説明用のリーフレット作成などに参画してもらい、展覧会を教育にも役立てることができました。

最後に、通常は訪れる人がもっとも少ない冬季（2010 年 1 月 16 日から 3 月 30 日）に第 10 回企画展「“漆”の再発見—日本の近代化学の芽生え—」を大学院理学研究科との共催で、漆を科学する会、北村昭齋（人間国宝）、日本化学会近畿支部、近畿化学協会、大阪大学 21 世紀懐徳堂などの協力を得て開催しました。期間中にミュージアムレクチャーを 4 回、鷺田総長と北村昭齋氏との特別対談も行い、入場者は、「いちょう祭」や「まちかね祭」などの大きな大学行事がないにも関わらず 3,728 名になりました。この展覧会の場合、準備から開催まで 1 年半ほどかかりましたが、それまでほとんど放置されてきた眞島利行およびその研究室の遺物の整理・博物館データベースへの面倒な入力作業を手伝ってくれたのは、大学院のサイエンスコア・カリキュラム受講生 12 名でした。

以上の企画展、特別展に加えて、2008 年度からはじめた「サイエンスカフェ@待兼山」の取り組みを、理学研究科、基礎工学研究科、文学研究科、薬学研究科、大学教育実践センター等の協力を得て継続して実施しました。待兼山修学館の 3 階セミナー室を会場として、毎回定員

30名で、前期10回、後期9回実施し、好評を博しました。

博物館への団体見学も増加しており、その数は年間52件になりました。その他、社会との連携に関する事業として、豊中市教育委員会と連携した「夏の小学生科学体験教室」を4回、また、千里ライフサイエンス振興財団と連携して、小学5,6年生を対象とした「自然体験学習会」も3回開催しました。

さらに、理学研究科宇宙地球科学専攻と共催で「世界天文年 全国同時七夕講演会 大阪大学講演」を7月7日に待兼山修学館セミナー室で開催しました（参加者数：計30名）。また、総合学術博物館湯川記念室の主催行事として、「第25回湯川記念講演会 1. 失われた反物質をめぐって 2. 断層掘削研究から地震の本質に迫る」を10月3日に中之島センター10階の佐治敬三メモリアルホールで開催し、190名の参加者がありました。湯川記念室が行う「最先端の物理を高校生に—宇宙から極微の世界まで—」（6回）も大変好評で、200名の高校生が熱心に参加してくれました。

その他の生涯学習への取り組みとして、「兵庫県阪神シニアカレッジ 健康福祉学科 1~4年生・漢方薬入門編」を10月13日と10月21日にイ号館イ-23教室および待兼山修学館で行いました（参加者数：計150名）。

以上の取り組みの結果として、2009(平成21)年度の入館者は20,123名に上り、前年度(16,098名)よりも着実に入館者数を延ばしています。

2009年度には、博物館教員の異動もありました。創立以来、ともに頑張ってくれた資料先端研究系准教授上田貴洋が、3月31日付けで退職し、4月1日に東洋大学理工学部教授として栄転しました。そして、その後任准教授として4月1日付けで理学研究科化学専攻から宮久保圭祐が着任しました。また、設立当初から要望しておりました人員増も、執行部のご理解を得て、新年度から大学留保ポスト（助教）を期限付き（3年）で措置してもらえるようになりました。資料部専属として松永和浩（本学文学研究科修了）が4月1日付けで赴任して参りました。博物館法の改正により、博物館実習の実施が大学博物館に求められており、その体制づくりがようやく整いつつあるところです。

2010年度は、大阪大学創立80周年の前年で、博物館でもそのイベントとして企画展等を実施していかなければなりません。これまで以上に地域交流型ミュージアムとして活発な活動を展開してゆく所存ですから、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2010年6月

大阪大学総合学術博物館長
江口太郎

目 次

1. 第4回特別展 昭和12年のモダン都市へ	
～観光映画「大大阪観光」の世界～	5
1.1 展示概要	7
2. 第9回企画展 維新派という現象「ろじ式」	15
2.1 展示概要	17
3. 第10回企画展 “漆”(JAPAN)の再発見	
－日本の近代化学の芽生え－	25
3.1 展示概要	27
4. 平成21年度活動報告	35
4.1 平成21年度の主な活動	37
4.2 関連記事一覧	40
4.3 サイエンスカフェ@待兼山	
“土曜の午後はミュージアム”	43
4.4 夏の小学生科学体験教室	47
4.5 専任教員活動報告	49
4.6 常設展示来館者数及びアンケート集計結果	73
4.7 団体見学等一覧	86
4.8 待兼山修学館3階セミナー室使用状況一覧	88
5. 館内配置図	91
6. 寄贈図書一覧	95

1. 第4回特別展
昭和12年のモダン都市へ
～観光映画「大大阪観光」の世界～

1.1 展示概要

大阪大学総合学術博物館第4回特別展「昭和12年のモダン都市へ～観光映画「大大阪観光」の世界～」を平成21年4月27日（月）から7月11日（土）まで大阪大学総合学術博物館で開催した。

大正14年（1925）に大阪市が第二次市域拡張で面積・人口とも東京市を抜き、日本第一のマンモス都市に膨張した時代が「“大大阪”の時代」である。本展覧会は、その“大大阪”の様子を撮影し、昭和12年（1937）に行政の宣伝目的で制作された映画「大大阪観光」（大阪市指定文化財）をテーマにしたもので、セミナー室では常時、「大大阪観光」（約28分）を上映するとともに、行政が演出する「都市観光」にひそむ都市の“迷宮性”そのものを、展示の形で再現できないか模索し、メディアリテラシーの意識も含めて、隣接の展示室に、映画に登場する動物園、電気科学館、美術館などの施設や、地下鉄、バス、観光艇「水都」などの交通機関に関する300点近くのグラフィック資料等を展示した。カタログ代わりに本展覧会に関する大阪大学博物館叢書を刊行したほか、「水都大阪2009」とも連動して話題となり、NHKの夕方のニュースをはじめ取材も多く、リニューアル後の待兼山修学館での展覧会としては、最多数の6,825人が入場した。

大阪大学総合学術博物館 第4回特別展

テーマ：昭和12年のモダン都市へ～観光映画「大大阪観光」の世界～

期間：平成21年4月27日（月）～7月11日（土）

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階多目的ルーム

主催：大阪大学総合学術博物館、大阪歴史博物館

共催：大阪大学大学院文学研究科

協力：大阪大学21世紀懐徳堂

入場者数：6,825人

—ミュージアム・レクチャー—

第11回 5/2（土） 「観光する大阪人—近代大阪の余暇と郊外—」

船越幹央（大阪歴史博物館） 入場者数：70人

第12回 5/9（土） 「道頓堀と千日前—近代大阪の育んだ芸能・演劇—」

横田洋（大阪大学総合学術博物館） 入場者数：60人

第13回 5/16（土） 「汚い大大阪—水からみた都市大阪の衛生環境—」

廣川和花（大阪大学総合学術博物館） 入場者数：27人

第14回 5/30（土） 「大大阪の建築事情 —ビルディング・ラッシュと郷土建築—」

酒井一光（大阪歴史博物館） 入場者数：76人

第15回 6/6（土） 「《大大阪観光》の映像を読む—メディアが作る“大大阪”イメージ」

橋爪節也（大阪大学総合学術博物館） 入場者数：98人



大阪大学総合学術博物館 第4回特別展

昭和12年のモダン都市へ



会期中、3階セミナー室で「大大阪観光」(大阪市指定文化財)を常時上映します。(但しミュージアム・レクチャー等開講中は除く)

2009年4月27日(月)~7月4日(土) 10時30分~17時
大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 (日曜・祝日は休館)

入館料 無料

ミュージアム・レクチャー ▶ 5/2、5/9、5/16、5/30、6/6の各土曜日、午後2時から館内3階セミナー室にて。
(観覧自由、開始30分前より受け付けます。会場の都合で希望者多数の場合は入場できないことがあります。講演の内容は当館ホームページをご参照ください。)



■交通のご案内:
阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分
※公共交通機関をご利用ください。また、当館は1Fアフォーですので、障害者向駐車スペースをご利用ください。

主催:大阪大学総合学術博物館・大阪歴史博物館 共催:大阪大学大学院文学研究科 協力:大阪大学21世紀懐徳堂

大阪大学総合学術博物館事務局 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 TEL:06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

展覧会はまだ終わらない

—第4回特別展「昭和12年のモダン都市へー 観光映画「大大阪観光」の世界—」の周辺
橋爪節也（大阪大学総合学術博物館教授）

展覧会の内容については、展覧会図録も兼ねて会期中に刊行された大阪大学総合学術博物館叢書4『映画「大大阪」観光の世界—昭和12年のモダン都市—』（大阪大学出版会）に論じたので、ここでは本展に関する周辺的な事項を記しておきたい。

まず、この展覧会を企画した経緯である。私が「大大阪観光」の存在を知ったのは、昭和57年にNHKが放送した「昭和回顧録 大大阪の観光」によってであり、ついで朝日放送が過去の記録映像をシリーズ放送した「映像タイムトラベル」でも「大大阪観光」はその第1回に登場した。そのときの印象が鮮烈であったことから、私が以前に在職した大阪市立近代美術館（仮称）建設準備室が、戦前の中之島を中心とする都心風景を描いた池田遙邨の《雪の大阪》（昭和3年、第9回帝展特選）を収集し、館蔵品として初公開したコレクション展「美術パノラマ・大阪」（ATC ミュージアム）で「大大阪観光」を会場ロビーで連日上映することになった。そこであらためてその映像に接し、疑問を抱いたのが、本作品において、重要な観光艇「水都」によって一度、訪れている大阪港に、観光艇から下船後、再び市電で向かうというルート設定であり、ラスト近く道頓堀や千日前をめぐる「なにわ踊り」になるが、この踊りが南地ではなく、北陽の演舞場で開催されたことが別の資料で分かったことなどである。また、現代の観光案内ならば必ず登場する大阪の食文化に関する映像も出てこない。

こうした疑問から「大大阪観光」を再検討した結果、この映画は、大阪を訪れた観光客が実用的に参考にするための映画ではなく、制作を発注した大阪市電気局と産業部という行政の意図によって演出、構成されたことが分かってきた。平成19年、私は編著書として『大大阪イメージ—増殖するマンモス/モダン都市の幻像』（創元社）を刊行し、様々な当時の“大大阪”に関するイメージを集めた同書のなかで、本作品に関する一項も設けてこの疑問を提示した。そして『大大阪イメージ』刊行直後、大阪大学に移り、特別展の企画を担当するに際し、メディアリテラシーの視点も踏まえて、もう一度、展覧会の形でこの映像作品について解明することを期したのである。

それは、かつての“大大阪”の雄姿が映し出されているというノスタルジーとしてではなく、いま現在あるべき都市の姿、そしてイメージとして普及させるべき都市像をどのように映像のなかに構築するかの問題——製作現場の意識のあり方がどうだったか、そして当時も今も変わらない広報の最前線で何がなされたかを再確認する作業でもあった。

会期中は、博物館での連続レクチャーや本展を共催した大阪歴史博物館でのシンポジウム「昭和12年のモダン都市へー都市大阪の虚像と実像—」（6月13日）も開催された。展示室に300点近いグラフィック資料を多数並べたことで、第51回意匠学会大会、大正イマジュリィ学会第17回研究会など学会や近代大阪美術研究会などの見学会も行われ、こうした美術デザインなど視覚文化系の研究者に注目されたことも、本展の特色かもしれない。また会期中、社団法人日本建築協会では私は「“大大阪”時代のモダン都市を絵画・映像に読む」と題して講演をおこなっている（6月17日）。なお、大阪市交通局も、展覧会開催中

の6月に、「大大阪観光」を収録した「大阪市交通局 昭和レトロ映像②」（大阪市交通局交通サービス株式会社、DVD）を発売した。

さて、「大大阪観光」の内容については博物館叢書で論じたと記したが、セミナー室で連続して映像を上映したこともあって、展覧会が進むにつれ、映像そのもののなかから新たな情報を得て補足すべき点がいくつか見つかった。展覧会は、単なる研究成果の「可視化」としてあるのではなく、展覧会の開催そのものが一つの調査研究の有力な手段であり、展覧会自体も、会期中に新しい情報提供などもあって成長していくものであることを痛感した。補足事項については『大阪春秋』第136号・平成21年秋号「特集 観光都市おおさか」（2009年10月発行）に、「映画「大大阪観光」再考 —モダン都市はいかに撮影されたか—」として書いたのを参照されたい。一般的な記事としては『上方芸能』9月号「特集 関西の新舞踊—なぜ広がるのか」（第173号、2009年9月発行）に「幻影の“大大阪” 再見—映画「大大阪観光」の展覧会を開催して—」を載せている。

もう一点見落とせないのは、この年、大阪では府市をあげて「水都大阪 2009」のイベントが開催されていたことである。「大大阪観光」に登場する観光艇「水都」は、まさに「水都大阪 2009」にさきがけた存在であり、阪大での展覧会終了後も本展の余波が残り、大阪市庁舎では、ヤノベケンジの巨大作品を展示する正面ホールに隣接する市民ロビーで、阪大博物館の協力によって「大大阪観光」が繰り返して上映され、資料のパネル展示がなされた（8月22日～10月12日）。大阪市立科学館では9月19日、水都大阪 2009 協賛プラネタリウム・スペシャルナイト「大大阪から、宇宙の旅」が開催され、プラネタリウムのスクリーンに「大大阪観光」を映写して解説するスペシャルトーク「モダン大阪見どころ案内—私の見た「大大阪観光」—」に私が出演した。同館では、水都大阪 2009 協賛展示「大大阪の時代と電気」も開催され、阪大での展示品より電気科学館時代の資料数点が展示された。

科学館のプラネタリウム・スペシャルナイトだが、私はこのイベントにおいて「平成版・大大阪観光」という映像を発表した。昭和12年に作られたオリジナルの「大大阪観光」の撮影場所とアングル、音声・音楽はそのまま用いて、現代の大阪の街を撮影したものである。私が発案して基本コンセプトをたて、知人のデザイナーたちの協力を得て、約7分あまりのパイロット版として制作された。撮影には一本松海運の協力も得て、遊覧船を無償で走行してもらったほか、服飾デザイナー永井純氏が観光艇「水都」のガイドであるマリンガールの衣装を再現した。

阪大での会期が終わっても本展覧会は、“大大阪”時代の記憶をよみがえらした企画として、広範な地域で市民や社会にアピールできたのではと自負している。



「大大阪観光」のマリンガール



「平成版・大大阪観光」のために復元されたマリンガールの衣装。

製作・永井純。

モデル・山口香織。



2. 第9回企画展
維新派という現象「ろじ式」

2.1 展示概要

大阪大学総合学術博物館では第9回企画展「維新派という現象『ろじ式』」を、平成21年10月1日～12月12日の約2ヶ月半にわたり、大阪大学総合学術博物館待兼山修学館において開催した。

1970年に大阪で結成された劇団「維新派」は、今日に至るまで前衛劇団として活動を続けており、世界的にも評価が高い。とりわけその独特のリズムで語る台詞廻しや巨大なオープンセットをすべて自前で制作する上演スタイルはその独特な世界を形成する要因になっている。その維新派の歴史と芸術的特性をよりよく理解するために、維新派から借りたパンフレット、雑誌記事、上演写真、VHS映像、舞台模型などを中心に企画展を開催した。また博物館前広場にて維新派によるパフォーマンスも行い、展覧会と上演という異なる方法で維新派の活動に触れることができた。前衛劇団の企画展という極めて冒険的な企画であったが、期間中の修学館への入場者数は、4,771名にのぼり、大好評であった。

大阪大学総合学術博物館 第9回企画展

テーマ：維新派という現象「ろじ式」

期間：平成21年10月1日(木)～12月12日(土)

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階多目的ルーム

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：維新派、大阪大学大学院文学研究科

協力：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、大阪大学21世紀懐徳堂

入場者数：4,771人

－ミュージアム・レクチャー－

- 第16回 11月2日(月) 「維新派の40年」
正木喜勝(大阪大学文学研究科) 入場者数：54人
- 第17回 11月3日(火・祝) 「ジャンジャン☆オペラから20世紀三部作へ
－維新派と1920年代のドイツ・アヴァンギャルド」
市川明(大阪大学文学研究科) 入場者数：58名
- 第18回 11月7日(土) 「維新派の作り方」
松本雄吉(維新派主宰) 入場者数：80名

－シンポジウム－

- 11月28日(土) 「維新派とその時代」
パネリスト：松本雄吉(維新派主宰)、扇田昭彦(演劇評論家)、
コディ・ポルトン(カナダ・ヴィクトリア大学)
司会：永田靖(大阪大学文学研究科) 入場者数：80名

－維新派パフォーマンス－

- 12月5日(土) 230名

大阪大学総合学術博物館第9回企画展

維新派という現象「るじ式」

2009.10.1thu — 12.12sat

at Museum of Osaka University

close:sunday&holiday
 (ATTENTION!:11.1sunday&3holiday→open)

10:30 — 17:00
 FREE

【ミュージアム・レクチャー】

会場：館内3階セミナー室(全席自由、30分前より受付開始、会場の都合により入場できないとあります)

第16回 / 11月2日(月) 14:00

正木真勝(大阪大学文学研究科)「維新派の40年」

第17回 / 11月9日(火・祝) 14:00

市川 明(大阪大学文学研究科)「チャンチャンオベラから20世紀三部作へ——維新派と1920年代のドイッ・アヴァンギャルド」

第18回 / 11月7日(土) 14:00

松本謙吉(維新派30年「維新派の作り方」)

【シンポジウム】「維新派とその時代」

11月28日(土) 14:00 会場：館内3階セミナー室

パネリスト / 松本謙吉(維新派30年)

園田昭彦(演劇博物館)

コーディネーター / 市川 明(大阪大学文学研究科)

司 会 / 永田 剛(大阪大学文学研究科)

【維新派「フォーマンス」】

12月5日(土) 14:00

会場：待兼山修学館前広場

入場無料

詳細は維新派公式サイトにて→<http://www.ishinba.com>

2009年10月1日(木) — 12月12日(土)

10:30 — 17:00

日曜・祝日は休館。ただし11月1日(日)、3日(火・祝)は開館。

入場無料

大阪大学総合学術博物館

待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

TEL.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

博物館でみる
 維新派のある風景。

The Exhibition of

大阪に生まれて現在でも活発に活動中の劇団「維新派」については、本格的な評価はまだされていないといってもよい。維新派は1970年に松本雄吉が創設してから一貫して前衛的なスタイルと内容で上演を続けている。もともとは現代美術のアーティストであった松本は、一般的な演劇畑とは離れており、そのことが却って独特な世界を構築する要因になっている。松本は当時流行していた舞踏やパフォーマンスと現代美術的な感性をと組み合わせて「失われた故郷」や「少年時代の記憶」をモチーフに上演活動を始め、いわゆる「アングラ演劇」の一角をなしていく。1990年代からは大阪弁の台詞を変則的なビートに乗せて歌うように語る「チャンチャン☆オペラ」を産んで行く。舞踏のように白粉を顔に塗りたくった少年や少女たちの、奇妙なリズムの物語は、野外に構築される巨大な舞台美術とともに一種の疑似的で架空の都市を思わせる半面、沖縄、紀州、瀬戸内海といった具体的な描写や言及に満ち溢れて、どの上演も維新派独特の錯綜感に溢れている。

今回の企画展は、そのような維新派を展覧会によって解説する試みでもある。「ろじ式」とは、近年維新派が取り組んでいるテーマの一つで、町の路地が時間と地理を超えて行き、アジアに繋がっていくという超現実的なイメージを喚起させる。そのことで作品は近代化の陰で失って行った都市や人間のアイデンティティを探求しているように見える。展覧会は、その「ろじ」にちなんで、展示スペースを路地風にアレンジしている。入口から狭い路地を通る構成にして、スペース内を一周できるようにしてある。ところどころに窓枠だけが吊られて窓から維新派の上演の記録や写真が見えるように工夫されている。

構成は、写真ばかりではなく、維新派の過去のポスターやチラシ、当時の雑誌記事などの切り抜き、舞台模型や衣装などがアーティスティックに配置されている。路地入口を入ると壁側には、設立から80年代までの創世期の資料が展示された。この時期は、舞台に立つ役者の肉体を過剰に追求するアングラ的パフォーマンスを行っていた。資料は、『吸血鬼物語』(1971)や『百舌女』(1975)他、当時の上演チラシやポスター、舞台写真、松本雄吉のインタビュー記事などが中心となっている。また、野外公演をおこなった場所の紹介などもされた。劇団員の手によって棧橋風に設計された通路には、1992年に上演された『虹市』の映像投射スペースが設けられた。

路地出口側通路には、90年代以降のポスターや舞台模型が展示される。資料

は、「チャンチャン☆オペラ」をはじめた 91 年の公演『少年街』から、『虹市』（1992）『ノスタルジア』（1993）、『青空』（1994）から 2000 年代までの上演ポスター、『カンカラ』（2002）で使用された舞台衣装、『キートン』（2004）の舞台模型などである。また、維新派の役者・スタッフの顔写真紹介なども展示されている。

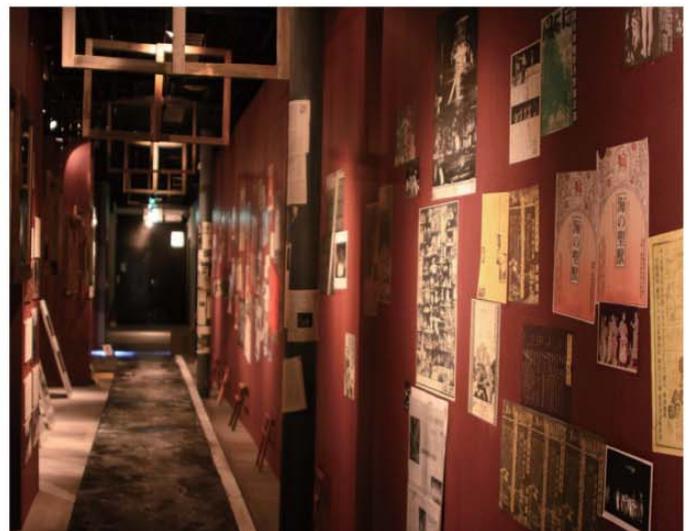
企画展入りロスペース部分には、近年の上演資料が展示されている。主に 2007 年から上演されている「《彼》と旅をする 20 世紀 3 部作」から展示されている。2008 年の琵琶湖畔で上演され、芸術選奨文部科学大臣賞や第 8 回朝日舞台芸術賞アーティスト賞などを受けた『呼吸機械』（2008）の舞台模型や上演台本、野外での製作の様子分かるスナップ写真などが中心である。『呼吸機械』の舞台映像も上映された。1 階の博物館玄関ロビーには、この三部作に登場する、4 人の巨大な人形が展示され、会期中来館者を歓迎した。

また期間中には、レクチャーとシンポジウムが行われ、維新派を読解する試みが行われた。レクチャーは、11 月 2 日「維新派の 40 年」正木喜勝（大阪大学助教）、11 月 3 日「チャンチャン☆オペラから 20 世紀三部作へー維新派と 1920 年代のドイツ・アヴァンギャルド」市川明（大阪大学教授）、11 月 14 日「維新派の作り方」松本雄吉（維新派主宰）の 3 回、シンポジウムは 11 月 28 日「維新派とその時代」松本雄吉、コディ・ポールトン（ヴィクトリア大学教授）、扇田昭彦（演劇評論家）、永田靖（司会、大阪大学教授）。各回とも 50 人を超える大盛況であった。

また 12 月 5 日には、同博物館前広場で維新派によるパフォーマンスが行われた。作品の『ろじ式』より「おかえり」「木製機械」、『カンカラ』より「くさまくら」が上演され、全体で一時間程の作品となった。200 人以上の観客が集まり、上演を楽しんだ。

今回の企画展は様々な点で興味深いものだった。展示会場を路地に見立てていくという趣向もさることながら、展示そのものも維新派の一種の作品として考えられており、展覧会全体の構成は通常の一般的な歴史的回顧でもなければ、また単なる現状の提示でもない。維新派の歴史、その上演を見た者の記憶、そして見立てられた路地の枠組みとが結合して独特の表象空間を生み出している。

この「ろじ式」は、この会期に重なって上演された新作『ろじ式』とつながっている。東京では 10 月 23 日～11 月 3 日、大阪では 11 月 13 日～23 日の間に上演されたこの作品は、この企画展と不即不離の関係にあり、維新派の美学を上演と企画展という異なる角度から鑑賞することを可能にした。いわゆるミュージアム・ピースとしての美術作品とライブ・アートとしての上演とが分かちがたく結びついた興味深い実験でもあり、それはそのまま維新派の美学でもあるのである。



3. 10 回企画展

“漆”（JAPAN）の再発見

—日本の近代化学の芽生え—

3.1 展示概要

黒く美しい光沢を放つ塗料として用いられる漆は、漆の木の樹液を加工して得られる天然樹脂であり、ウルシオールと呼ばれる化合物を主成分としている。このウルシオールの構造決定に至るまでの研究は、じつは日本における有機化学の発展の原点でもあり、大阪大学理学部化学科の創設に携わった眞島利行教授の業績である。本企画展は、日本人の智慧の集積である漆の工芸品作成工程に、有機化学研究の歴史も交えた化学的解説を加えることで、「伝統工芸という芸術」とアカデミックな「化学という学問研究」の融合を図り、漆の魅力を新たな視点から再発見する機会を与えることを趣旨とした。企画展では、歴史的価値の高い漆工芸品や眞島利行の実験道具など多彩な展示物が置かれ、また、4名の講師によるミュージアムレクチャーや、人間国宝の北村昭齋氏とのスペシャル対談なども実施され、1月16日から3月30日までの2か月強の間にのべ3,728名もの来場者があり、大変好評であった。

大阪大学総合学術博物館 第10回企画展

テーマ：“漆”（JAPAN）の再発見－日本の近代化学の芽生え－

期間：平成22年1月16日（土）～3月30日（火）

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階多目的ルーム

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：大阪大学大学院理学研究科

協力：漆を科学する会、北村昭齋（人間国宝）、日本化学会近畿支部、近畿化学協会、
大阪大学21世紀懐徳堂

入場者数：3,728人

－スペシャル対談－

2月3日（水）北村昭齋（人間国宝・重要無形文化財保持者）、鷺田清一（大阪大学総長）、

司会：橋爪節也（大阪大学総合学術博物館教授） 入場者数：100名

－ミュージアム・レクチャー－

第19回 2月16日（土）「木彫文化財保存修復－現場での漆の使われ方とそのコツ」

八坂寿史（財団法人美術院国宝修理所） 入場者数：75名

第20回 2月16日（土）「漆・漆器産業の盛衰と化学産業－漆器産業再生の鍵を探る－」

山本勝巳（前愛媛大学大学院法文学研究科） 入場者数：71名

第21回 2月20日（土）「漆の可能性を考える」

大藪泰（京都市産業技術研究所 工業技術センター）

入場者数：84名

第22回 2月20日（土）「眞島利行の漆の化学的研究」

芝哲夫（ペプチド研究所） 入場者数：100名

漆

大阪大学総合学術博物館 第10回企画展

の再発見

日本の近代化学の芽生え

J A P A N

2010年1月16日[土] → 3月20日[土] (日曜・祝日は休館)

10:30~17:00 入場無料

エッ、
化学がアートに



▲ウルシオール分子構造

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

スペシャル対談: 2月3日(水) 午後3時から

ミュージアムレクチャー: 2月6日(土)・2月20日(土) 午後1時から

主催: 大阪大学総合学術博物館

共催: 大阪大学大学院理学研究科

協力: 漆を科学する会 / 北村昭齋(人間国宝) / 日本化学会近畿支部
近畿化学協会 / 大阪大学21世紀懐徳堂

「漆の再発見 ―日本の近代科学の芽生え―」展を振り返って

理学研究科教授
久保 孝史

ウルシノキから得られる白濁の樹液が、空气中で漆黒の艶やかな樹脂へと変化する。日本人は古くからそれを巧みに利用して漆工芸品を生み出してきた。明治以降、国際化も視野に入れ本格的に産業化が進められた漆工芸は、それまでの勘と経験に頼る手法から科学を取り入れた効率的な手法へと移行することが求められていた。折しも日本に近代化学が導入され、漆は工業のみならず学問の対象としても積極的に研究された。その化学的研究の中心人物の一人が眞島利行であった。そもそも化学とは物質の本質を分子の立場から理解する学問であるが、残念ながら当時の日本には分子を扱うための十分な土壌が整っておらず、眞島は国命を受けてドイツおよび英国に渡り、その知識や技術を積極的に日本に持ち込んだ。その後、眞島らにより漆液の主成分であるウルシオール¹の分子構造が化学的に決定され、さらにはウルシオールが酵素と酸素により重合して樹脂化するメカニズムまで明らかにされた。その過程で眞島は多くの弟子を育て、現在の日本の有機化学の礎を築き上げた。同時に、眞島は大阪帝国大学理学部の創設に携わり、初代理学部長を務めた。

本企画展は、日本人の智慧の集積である漆の工芸品作成工程に、上述したような有機化学研究の歴史も交えた化学的解説を加えることで、「伝統工芸という芸術」とアカデミックな「化学という学問研究」の融合を図り、漆の魅力を新たな視点から再発見する機会を与えることを趣旨とした。

会場入り口付近には、「漆を再発見しよう」と題して漆工芸品の数々を配し、来場者にまずは漆の魅力を視覚的に感じてもらった。そごうエレベーター漆螺鈿装飾扉（島野三秋作、1935年、そごう所蔵）、蒔絵堤重（江戸時代）、松に南天椿隅赤箱（江戸時代）など、歴史的価値が非常に高い品々を並べ、漆の美しさに触れていただくと同時に、時を経ても色あせない漆の優れた耐久性も実感してもらった。また、ただ漆を鑑賞するだけではなく、本漆と漆代替品の違いを手にとって感じてもらうコーナーも設置した。

続く中心部では、「漆を化学する」と題して、ウルシオールの分子構造が決定されるまでのいきさつを、眞島利行の業績を軸に据えながら展示した。先に述べたとおり、眞島は海外から様々な技術を持ち帰ってきたのであるが、中でもウルシオールの構造の決定に重要な役割を果たしたのが、減圧蒸留装置、常圧接触還元装置、オゾン発生器の三つの実験機器である。オゾン発生器については、本学理学部化学科に保管してあったものをそのまま展示した。しかし、残る二つの装置については図面しか残っていなかったため、科学教育機器リノベーションセンターの協力のもと、同装置のレプリカの作成を行い展示した。その他、眞島が使用していた実験台（天板は漆塗り）や実験ノート、さらには合成単離した

ウルシオールも展示し、当時の実験の様子が覗えるような工夫を施した。

ウルシオールは長い炭素鎖をもつカテコール誘導体であるが、実際に眞島は、減圧蒸留装置を用いてまずはウルシオールを粗精製し、続いて常圧接触還元装置を用いてウルシオールを誘導体として結晶化（高純度化）させ、化学反応を施して炭素鎖の炭素数を 15 と決定し、さらには同じく化学反応によりその炭素鎖の位置を決め、最終的にオゾン発生器を用いて炭素鎖に含まれる二重結合の数を明らかにすることで、ウルシオールの構造決定に至っている。

眞島の代表的な研究はウルシオールに関するものであるが、他にも多くの天然物由来成分の構造決定も行っている。その過程で多くの弟子を育て上げたことも、眞島の偉大な業績のひとつである。その弟子たちは、本理学部化学科を含めた全国各地で日本の有機化学を発展させていくことになるのだが、本企画展では、赤堀四郎（メチオノール：醤油の香気成分）、野副鉄男（ヒノキチオール：ヒノキに含まれる 7 員環化合物）、村橋俊介（マツタケオール：マツタケの香気成分）らの業績を紹介し、来場者にはこれらの物質の匂いも実際に体験してもらった。

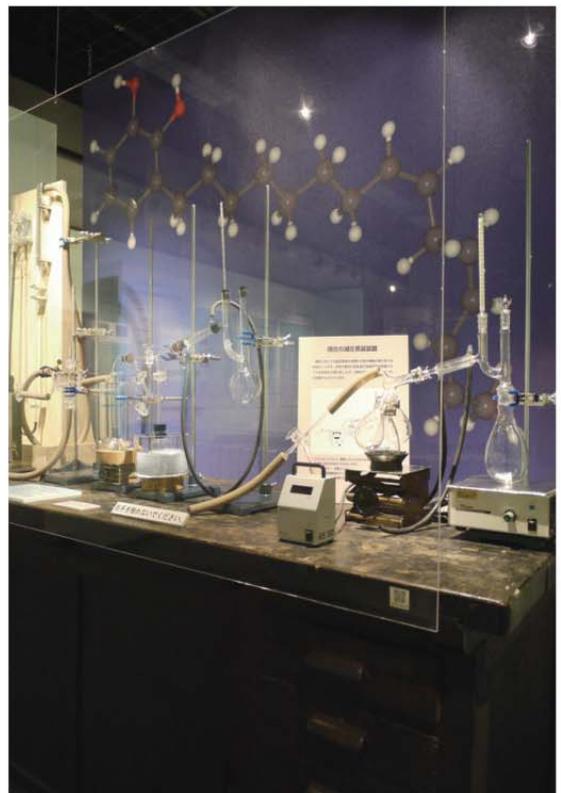
中心部に続く展開部として、「漆の展開」と題し、現在の漆の役割について展示を行った。ここでは、漆工芸の装飾技法のひとつである螺鈿の人間国宝、北村昭齋氏に全面的に協力していただき、蒔絵工程の見本や北村氏の作品などを展示した。その螺鈿の美しさは来場者を大いに魅了したに違いない。北村氏は創作のみならず、正倉院、出雲大社、春日大社など多くの国宝や宝物の修理を行っており、本企画展ではその様子の一部も展示した。また、巨大な阿修羅像（奈良興福寺）のレプリカ試作品（財団法人美術院国宝修理所 所蔵）は、来場者の目を奪うと同時に、塗料として以外の漆の用途を認識させるものとなった。他にも、装飾品や食器など漆の魅力を活かした製品（佐藤喜代松商店 所蔵）なども展示し、現代の漆の持つ幅広い役割が示された。

本企画展では展示以外に、4名の講師によるミュージアムレクチャーも実施された。八坂寿史氏（財団法人美術院国宝修理所）、山本勝巳氏（前愛媛大学大学院法文学研究科）、大藪 泰氏（京都市産業技術研究所 工業技術センター）、芝 哲夫氏（ペプチド研究所）らが行う講義に、毎回 100 名近くの聴講者が集まり、中には講師に鋭い質問をする一般の方々もおられ、漆に対する関心の高さがうかがえた。また、北村昭齋氏（人間国宝、重要無形文化財保持者）、鷺田清一 大阪大学総長、橋爪節也 博物館教授の三者によるスペシャル対談も実施され、こちらも大変盛況であった。

約 2 ヶ月間の会期の中に、のべ 3,728 名もの来場者があった本企画展であったが、そこには理学研究科化学専攻の学生 15 名および文学研究科文化表現論専攻の学生 3 名の多大なる貢献があったことを最後に述べさせていただく。理学研究科の学生は、まずは理学部化学科が所有していた主に眞島利行の史料の整理から始め、その後、企画展のシナリオ作り、さらには展示パネルの内容や眞島の実験機器のレプリカ作成など、企画展の実行において化学専攻の若手教員と共に中心的な役割を果たしてきた。学生達は常に自主的にしかも大

変熱心に活動し、本企画展の内容を大変豊富にしてくれた。また、文学研究科の学生は、芸術面および歴史的背景について詳細な解説を作成し、理系の学生とは異なる視点から演出を施してくれ、企画展のクオリティーを大いに高めてくれた。まずはこれら学生諸子並びに若手教員に感謝申し上げたい。また、本企画展では、前出の企業・団体の他、丹波漆生産組合、ヒノキ新薬株式会社、および個人のご所蔵資料を多数拝借した。この場をお借りして厚く御礼申し上げたい。

大学所有の博物館は、歴史的価値のある物の展示や業績の紹介に止まらず、学生教育の場としても非常に貴重な存在であることを、本企画展は教えてくれた。教育の多様性はこのようなところからも生み出せるものであろう。企画展の内容もさることながら、学生や若手教員の意識レベルでも文理融合を果たした本企画展は、博物館の存在無くしては成しえなかったものと実感している。



4. 平成 21 年活動報告

4.1 平成 21 年度の主な活動

期間	主な活動
平成 21 年	
4 月 4 日	サイエンスカフェ@待兼山No.26「ホテルの光のひみつ」が行われた。(講師:総合学術博物館 豊田二郎准教授)
4 月 11 日	平成 20 年度のサイエンスカフェとしては最終回となるサイエンスカフェ@待兼山No.27「医療の歴史@文系」が行われた。(講師:総合学術博物館 廣川和花助教)
4 月 27 日～7 月 11 日	第 4 回特別展 昭和 12 年のモダン都市へ～観光映画「大大阪観光」の世界～を開催。新聞やテレビ等で多く紹介されたこともあり、6,825 人にのぼる来館者にお越しいただき、好評をいただいた。
5 月 24 日	畑田家住宅活用保存会主催、当館協賛でフォーラム「お茶と日本人の心」が開催された。(場所:国の登録有形文化財 畑田家住宅 講師:武者小路千家家元 千 宗守)
6 月 13 日	大阪歴史博物館にてシンポジウム「昭和 12 年のモダン都市へー都市大阪の虚像と実像ー」が開催された。パネリストとして当館の橋爪節也教授が登壇した。(主催:大阪歴史博物館、大阪大学総合学術博物館)
6 月 28 日	畑田家住宅活用保存会主催、当館協賛で音楽フォーラム「和の静寂で聴くオペラのアリアとリストのラ・カンパネラ」が開催された。(場所:国の登録有形文化財 畑田家住宅 出演:関西二期会ソプラノ 畑田弘美 ピアノ 吉山 輝)
7 月 7 日	世界天文年 全国同時七夕講演会が待兼山修学館 3 階セミナー室にて行われた。この行事は日本天文学会(主催)、天文教育普及研究会(共催)による企画で、大阪大学講演は大阪大学宇宙地球科学専攻と総合学術博物館との共催で行われた。
7 月 11 日	平成 21 年度のサイエンスカフェ@待兼山「土曜の午後はミュージアム」が始まり、この日はNo.28「味の話」が行われた。(担当教員:理学研究科 小倉明彦教授)
7 月 22 日	待兼山修学館前にて「日食を見よう!日食観測会 in 大阪大学」が大阪大学天文同好会と大阪大学 21 世紀懐徳堂の主催で行われた。当日はあいにくの天気であったが、時々太陽が雲間から顔を出すのを捉えて観測が行われた。(総合学術博物館協賛)
7 月 25 日	サイエンスカフェ@待兼山No.29「ロボットと仲良くしよう」が開催された。(担当教員:基礎工学研究科 新井健生教授)
8 月 1 日	大阪大学理学部化学科、日本学術振興会主催で大阪大学理学部化学科一日体験入学「分子の世界をのぞいてみよう」が理学部化学科にて行われた。(主催:大阪大学理学部化学科、日本学術振興会 共催:大阪大学総合学術博物館、日本化学会)
8 月 1 日	千里ネイチャー・カレッジ“観て・触れて・考える”『自然・体験学習会』の一環としておもしろ科学実験が(財)千里ライフサイエンス振興財団主催、豊中市教育委員会共催で行われた。当館も協力し、館長の江口も一部の授業の講師を担当した。場所は大学教育実践センター講義棟にて行われた。
8 月 8 日	サイエンスカフェ@待兼山No.30「宇宙から極微の世界まで(Ⅱ)ー自然界に於ける保存則ー」が行われた。(講師:理学研究科 藤田佳孝准教授)
8 月 12 日～10 月 12 日	水都大阪 2009 開催記念展示会「大大阪の時代と電気」が大阪市立科学館主催、当館共催で行われた。
8 月 22 日	サイエンスカフェ@待兼山No.31「歴史学研究のフロンティア」が行われた。(講師:総合学術博物館 廣川和花助教)
8 月 24 日	当館ととよなかサイエンスネット実行委員会主催で小学校 5、6 年生対象の「夏の小学生科学体験教室」が行われた。1 日目は「カラフルなマイクロカプセルをつくろう!」というタイトルで授業を行った。(講師:理学研究科 松本幸三助教)

- 8月24日 千里ネイチャー・カレッジ“観て・触れて・考える”『自然・体験学習会』の一環として「生き物の不思議発見」が(財)千里ライフサイエンス振興財団主催、豊中市教育委員会共催で行われた。当館も協力という形で参画した。場所は理学研究科D棟にて行われた。
- 8月25日 「夏の小学生科学体験教室」2日目は「冷やせ！-195℃の不思議な世界」というタイトルで授業を行った。(講師：理学研究科 宮久保圭祐助教)
- 8月26日 「夏の小学生科学体験教室」3日目は「手作り分光器で光を分けてみよう。」と題して行われた。(講師：総合学術博物館 上田貴洋准教授)
- 8月27日 「夏の小学生科学体験教室」最終日には「豊中の村々の歴史をしらべてみよう」が行われた。(講師：総合学術博物館 廣川和花助教)
- 8月29日 サイエンスカフェ@待兼山No.32「熱と温度の話」が行われた。(講師：総合学術博物館 上田貴洋准教授)
- 9月5日 サイエンスカフェ@待兼山No.33「炭素をもっと知ってみよう」が豊中市教育委員会共催で行われた。(講師：理学研究科 蔵田浩之講師)
- 9月19日 サイエンスカフェ@待兼山No.34「植物の見分け方の話」が豊中市教育委員会共催で行われた。(講師：薬学研究科 道下雄大技術補佐員)
- 9月19日 大阪市立科学館・嘉数学芸員プロデュース プラネタリウム・スペシャルナイト「大大阪から、宇宙への旅」が大阪市立科学館主催、当館共催で行われた。(会場：大阪市立科学館 プラネタリウムホール)
- 10月1日～12月12日 第9回企画展 維新派という現象「ろじ式」を開催。大阪を拠点に活動する現代日本を代表する劇団維新派の歴史とその芸術を紹介。
- 10月3日 大阪大学総合学術博物館湯川記念室主催で第25回湯川記念講演会「失われた反物質をめぐって」(講演者：神奈川大学工学部三田一郎教授)と「断層掘削研究から地震の本質に迫る」(講演者：大阪大学理学研究科 廣野哲朗准教授)が大阪大学中之島センターにて行われた。
- 10月10日 サイエンスカフェ@待兼山No.35「ゴムはどうして伸びるの？-ものの性質のなぜ？なに？-」が豊中市教育委員会共催で行われた。(講師：理学研究科 佐藤尚弘教授)
- 10月17日 サイエンスカフェ@待兼山No.36「身の周りのもののデザイン」が行われた。(講師：大学教育実践センター 中村征樹准教授)
- 10月24日 千里ネイチャー・カレッジ“観て・触れて・考える”『自然・体験学習会』の一環として小学校5、6年生対象の昆虫・植物を五感で観る野外観察会が(財)千里ライフサイエンス振興財団主催、豊中市教育委員会共催で待兼山修学館裏山にて行われた。当館も協力という形で参画した。
- 10月24日～11月28日の毎週土曜日 大阪大学総合学術博物館湯川記念室主催の高校生を対象とした行事「6週間でダヴィンチになろう！最先端の物理を高校生に」が豊中キャンパスにて6回に分けて行われた。
- 10月31日 サイエンスカフェ@待兼山No.37「かえるの子はかえる-遺伝子の正体、DNAとは-」が豊中市教育委員会共催で行われた。(講師：基礎工学研究科 岩井成憲教授、山元淳平助教)
- 11月15日 畑田家住宅活用保存会主催、当館協賛で畑田家住宅(登録有形文化財)の一般公開とフォーラム「奈良の風物詩」が行われた。
- 12月19日 サイエンスカフェ@待兼山No.38「やってみよう！現代フランス文学の言葉遊び」が行われた。(講師：文学研究科 深川聡子助教)
- 平成22年
1月9日 サイエンスカフェ@待兼山No.39「太陽系外に生命は存在するか？」が豊中市教育委員会共催で行われた。(講師：理学研究科 芝井広教授)

- 1月16日～3月30日 化学的解説を交えて漆器の美しさを探る第10回企画展“漆”(JAPAN)の再発見ー日本の近代化学の芽生えーが開催された。
- 1月16日 サイエンスカフェ@待兼山No.40「シルクロードと日本」が行われた。(講師:文学研究科 坂尻彰宏助教)
- 1月23日 サイエンスカフェ@待兼山No.41「馬形埴輪はなぜ復元できたのか?」が行われた。(講師:文学研究科 寺前直人助教)
- 1月30日 サイエンスカフェ@待兼山No.42「いろいろな電池」が豊中市教育委員会共催で行われた。(講師:基礎工学研究科 川野聡恭教授)
- 2月13日 サイエンスカフェ@待兼山No.43「弁証法の魅力」が行われた。(講師:文学研究科 家高洋助教)
- 3月6日 サイエンスカフェ@待兼山No.44「大学博物館を考える」が行われた。(講師:総合学術博物館 横田洋研究支援推進員)
- 3月13日 サイエンスカフェ@待兼山No.45「ホタルの光のひみつ」が行われた。(講師:総合学術博物館 豊田二郎准教授)
- 3月20日 サイエンスカフェ@待兼山No.46「磁石と電波でからだをみる?」が行われた。(講師:総合学術博物館 江口太郎館長)
- 3月21日 畑田家住宅活用保存会主催、当館協賛で第12回畑田塾が畑田家住宅において開催された。

4.2 関連記事一覧

新聞（博物館関連）

掲載日	掲載誌名	内容
平成 21 年 4 月 16 日	産経新聞	浪花八百八橋 「大大阪」 自慢の美観地区
5 月 12 日	大阪日日新聞	阪大 学術博物館 映画「大大阪観光」テーマに企画展
5 月 24 日	毎日新聞	モダン都市大阪を再現
6 月 7 日	産経新聞	おおさか Network マンモス都市「大大阪」の世界 昭和 12 年の映画もとに展覧会
6 月 9 日	朝日新聞	風来望 「大大阪観光」展を訪ねる
6 月 16 日	朝日新聞	科学 研究者と科学語るカフェ ■サイエンスカフェ@待兼山の開催日程
6 月 24 日	朝日新聞	A+1 ■子供と一緒に 昭和 12 年のモダン都市へ(催し開催のお知らせ)
7 月 2 日	読売新聞	文化欄 アート 明治政府の国家企画 京都・大阪 博覧会を機に再興
7 月 23 日	朝日小学生新聞	大学の博物館 阪大 総合学術博物館 キャンパスから出土「待兼」ワニ
10 月 25 日	朝日新聞	阪大、高校生に物理学
10 月 28 日	朝日新聞	A+1 維新派という現象「ろじ式」(催し案内)
11 月 12 日	朝日新聞	企画展「維新派という現象『ろじ式』」
11 月 26 日	神戸新聞	文化 独自の手法読み解く 劇団「維新派」展 大阪・豊中
12 月 7 日	四国新聞	美術的ダイナミズムを優先 劇団「維新派」めぐりシンポ
12 月 8 日	大阪日日新聞	関西美術探訪 阪大 美学研究室 大阪大学総合学術博物館第 9 回企画展 維新派という現象「ろじ式」
12 月 8 日	京都新聞	美術的ダイナミズム優先 阪大でシンポ 劇団「維新派」主宰者語る
12 月 9 日	山陽新聞	劇団「維新派」舞台装置めぐり大阪でシンポ 美術的ダイナミズム優先
平成 22 年 1 月 18 日	産経新聞	漆 (JAPAN) の再発見 日本の近代化学の芽生え (案内)
1 月 20 日	朝日新聞	A+1 漆の再発見 日本の近代化学の芽生え (催し案内)
1 月 28 日	徳島新聞	大阪ナビ 『漆 (JAPAN) の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
1 月 30 日	中日新聞	週末情報バック ギャラリー 『漆 (JAPAN) の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
2 月 1 日	大阪日日新聞	Oh! 得情報 展覧会 『漆 (JAPAN) の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
2 月 2 日	日本経済新聞	阪大博物館で「漆の再発見」展 手箱など 50 点、製作過程にも光
2 月 19 日	THE JAPAN TIMES	OPENING KANSAI "Today's Knowledge of 'japan' "
3 月 2 日	読売新聞	夕刊文化 阪大で「漆の再発見」展 化学、芸術両面から魅力探る

新聞（博物館教員関連）

掲載日	掲載誌名	内容
平成 21 年 4 月 16 日	産経新聞	浪速 八百八橋 「大大阪」 自慢の美観地区 (橋爪節也教授)
5 月 28 日	産経新聞	浪速 八百八橋 おもちゃが伝える " 大大阪 " (橋爪節也教授)
6 月 18 日	日本経済新聞	ブッククリップ 映画「大大阪観光」の世界 (橋爪節也教授)
8 月 4 日	建設通信新聞	関西支社 暑中企画 4 つの視点でまちづくり探る 「大大阪」(橋爪節也教授)
9 月 13 日	朝日新聞	週刊まちぶら 第 200 号特別編 激動の町 走る笑顔 道頓堀かわい 大大阪パワー研究 (橋爪節也教授)
9 月 17 日	読売新聞	70 年前の大阪観光 もう一度映画に (橋爪節也教授)
平成 22 年 1 月 4 日	建設通信新聞	関西支社 新春企画 本物を体験できる都市に 羽ばたく大阪づくり 一誇れるまちを市民とともに (橋爪節也教授)
3 月 23 日	産経新聞	高度成長期の最先端「西長堀アパート」 壁画どこへ行く (橋爪節也教授)

その他刊行物

	刊号	内容
朝日 21 関西スクエア会報 朝日新聞大阪本社	vol.113 2009.4	迷宮都市「大大阪」に触れよう 大阪大学で27日から特別展
大阪春秋 株式会社 新風書房	vol.134 平成21年春号	第4回特別展「昭和12年のモダン都市へ ～観光映画『大大阪観光』の世界～」
ぶんぶん ASA 川西山下 エリア版 ぶんぶん編集室	2009年5月3日 第214号	大阪大学総合学術博物館 第4回特別展 ～昭和12年のモダン都市へ 観光映画「大大阪観光」の世界～ (案内)
これがウチの十八番やねん! いしばし商店街	2009年5月18日～20日	特別展 昭和12年のモダン都市へ (開催のお知らせ)
シティライフ 株式会社 シティライフ NEW	2009年6月 vol.76	昭和12年のモダン都市へ - 観光映画「大大阪観光」の世界 -
KINIAS ニュースレター 近畿産業考古学会	2009.6.1 第43号	《近畿の産業遺産》⑫ 近畿の情報処理技術遺産
ザ・淀川 有限会社コミュニティ企画	2009年6月 第338号	観光映画「大大阪観光」の世界 大阪大学総合学術博物館 第4回特別展 昭和12年のモダン都市へ
examiner 株式会社 イグザミナ	2009年7月号 通巻262号	大阪大学総合学術博物館 第4回特別展 昭和12年のモダン都市へ 観光映画「大大阪観光」の世界
これがウチの十八番やねん! いしばし商店街	2009年6月18日～20日	特別展 昭和12年のモダン都市へ～観光映画「大大阪観光」の世界～ (開催のお知らせ)
情報処理 5 社団法人 情報処理学会	VOL. 50 NO. 5 通巻531号 別刷	～報告～ 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式
KANSAI1 週間 株式会社 サンケイリビング新聞社	2009年7月7日 第11巻第14号(通巻268号)	CATCH THE マジネタ!! 昭和12年のモダン都市へ～観光映画「大大阪観光」の世界～
大阪春秋 株式会社 新風書房	平成21年 夏号通巻No.135	春秋便り シンポジウム「昭和12年のモダン都市へ - 都市大阪の虚像と実像 -」
広報とよなか 豊中市	2009年8月号 通巻712号	夏の小学生科学体験教室
季刊 上方芸能 上方芸能	2009-9 173	芸能ジャーナル 幻影の“大大阪” 再見 - 映画「大大阪観光」の展示会を開催して -
Zigzag time じぐざぐたいむ4・5・6年生 株式会社 Z会	2009年9月	サイエンスカフェ@待兼山 (案内)
これがウチの十八番やねん! いしばし商店街	2009年9月17日～19日	企画展 維新派という現象「ろじ式」(案内)
ともも 有限会社 ともも	2009年10月 No.99	第9回企画展 『維新派という現象「ろじ式」』(案内)
東研情報 東京教育研究所	-	ぐるっと「かんさい・しこく」発! EduNews④ 子どもたちへの科学教育 ～教育委員会と関係機関のネットワークづくりによる支援の取り組み～ (共催サイエンスカフェについて)
文部科学時報 文部科学省	2009年9月 NO.1604	未来技術遺産 ARCHIVES 6 大阪大学真空管式計算機
大阪春秋 株式会社 新風書房	平成21年 秋号通巻No.136	書評 大阪大学総合学術博物館叢書 4 映画「大大阪観光」の世界 - 昭和12年のモダン都市 - を読む
大人組 Kansai 株式会社 ブラネットジアース	2009年11月 11月号 vol.57	『維新派という現象「ろじ式」』(案内)
これがウチの十八番やねん! いしばし商店街	2009年10月16日～18日	企画展 維新派という現象「ろじ式」(案内)
C・work E&E 大阪市交通局	2009.10.15 vol.71	大阪大学総合学術博物館第9回企画展 「維新派という現象「ろじ式」」
これがウチの十八番やねん! いしばし商店街	2009年11月17日～19日	企画展 維新派という現象「ろじ式」(案内)
シティライフ北摂 WEST 版 株式会社 シティライフ NEW	2010年1月1日 vol.83	化学がアートに!? “漆”(JAPAN)の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -
ともも 有限会社 ともも	2010年1月 No.102	第10回企画展『漆(JAPAN)の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
Hello!Doctor (ハロドクター) アミューズ発行	2010.1.15 No.41	『漆(JAPAN)の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
これがウチの十八番やねん! いしばし商店街	2010年1月17日～19日	『漆(JAPAN)の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
これがウチの十八番やねん! いしばし商店街	2010年2月18日～20日	『漆(JAPAN)の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
大阪人 財団法人 大阪市都市工学情報センター	2010年3月号 vol.64	Town 街の情報 『漆(JAPAN)の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
ナショナル ジオグラフィック日本版 株式会社 日経ナショナル ジオグラフィック	2010年3月号 第16巻第3号	イベント 『漆(JAPAN)の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)
辞書びきえほん もののはじまり ひかりのくに株式会社	2010年3月発行	「け」…顕微鏡 ●日本初の電子顕微鏡
これがウチの十八番やねん! いしばし商店街	2010年3月18日～20日	『漆(JAPAN)の再発見 - 日本の近代化学の芽生え -』(案内)

その他の刊行物（博物館教員関連）

	刊号	内容
美術フォーラム 21 醍醐書房	2009 VOL.19	特集 17 工芸史研究の現在 近代工芸 都市の"記憶"の幻影-街に漂う"工芸"的なもののイメージ-(橋爪節也教授)
大阪春秋 株式会社 新風書房	平成 21 年 夏号 通巻 No.135	特集●水の都おおさかⅡ "水都"の美の発見者、織田一磨・石版画集《大阪風景》より-(橋爪節也教授)
KEIHAN NEWS K PRESS 京阪電気鉄道株式会社	9月号 vol.126	特集 夢の島ヘナビゲート 水都を体感 中之島を楽しもう！(橋爪節也教授)
大阪春秋 株式会社 新風書房	平成 21 年 秋号通巻 No.136	映画「大大阪観光」再考 —モダン都市はいかに撮影されたか— (橋爪節也教授)
化学と工業 社団法人 日本化学会	Vol63-3 March 2010	お知らせ 平成 21 年度化学会 推戴・表彰 化学教育賞 広範な世代への科学的思考の伝達手法と啓発の実践 (江口太郎館長)

インターネット記事

Osaka Cityweb 大阪地下鉄沿線タウン情報	[昭和 12 年のモダン都市へ] (案内)
えるこみ サンケイリビング新聞社	エリア情報アラカルト 大阪大学総合学術博物館 ●特別展 「昭和 12 年のモダン都市へ」
神戸新聞 WEBNEWS 株式会社 神戸新聞社	文化 独自の手法読み解く 劇団「維新派」展 大阪・豊中

ラジオ

番組名	日時	内容
ノムラでノムラだ♪ 毎日放送ラジオ	平成 21 年 7 月 1 日	[ノムラの 2 重丸] [昭和 12 年・戦前のモダン都市・大阪] (橋爪節也教授)

4.3 サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム”

サイエンスカフェ@待兼山

土曜日の昼下がりに、大阪大学総合学術博物館でサイエンスカフェを楽しみませんか。
阪大博物館のサイエンスカフェも2年目を迎えました。昨年は初めての経験で手探りで始めましたが、おかげさまで大好評でした。コーヒーを片手にクッキーをつまみながら「科学する」とはどういうことかを、研究者とともに考えていきます。そのことを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと願っています。

大阪大学の総合学術博物館、理学研究科、基礎工学研究科、薬学研究科、文学研究科、大学教育実践センターの教員や院生有志がコーディネーターを務める予定です。

カフェ番号 ^{*1}	予定日	コーディネーター	所属 ^{*2}	タイトル	対象
28	2009/7/11	小倉 明彦	理	味の話	小学生～一般 (親子連れ歓迎)
29	7/25	新井 健生	基	ロボットと仲良くしよう	中学生以上が望ましい
30	8/8	森田 佳孝	理	宇宙から極微の世界まで(II) －自然界に於ける保存則－	高校生以上
31	8/22	廣川 和花	博	歴史学研究のフロンティア	中学生以上
32	8/29	上田 貴洋	博	熱と温度の話	小学5、6年生以上
33	9/5	森田 浩之	理	炭素をもっと知ってみよう	中学生以上
34	9/19	道下 雄大	薬	植物の見分け方の話	高校生以上
35	10/10	佐藤 尚弘	理	ゴムはどうして伸びるの？ －ものの性質のなぜ？なに？－	制限なし
36	10/17	中村 征樹	実	身の周りのもののデザイン	中学生以上
37	10/31	岩井 成憲 山元 洋平	基	かえるの子はかえる －遺伝子の正体、DNAとは－	高校生以上

*1 〇つきのカフェは豊中市教育委員会との共催です。

*2 博:総合学術博物館、理:理学研究科、基:基礎工学研究科、実:大学教育実践センター、薬:薬学研究科

開催場所: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室

開催時間: 毎回午後2時から3時半まで(午後5時閉館)

定員: 各回とも30名程度

参加費: 飲み物代(200円)が必要

申込方法: Webフォームによる申し込み、あるいは
往復葉書(カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記。ご家族でお申込の場合は、一緒に参加を希望される方のお名前、年齢をご記入ください。)
〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 大阪大学総合学術博物館
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

申込期間: 各カフェ開催日の2ヶ月前から10日前まで(必着)

原則として参加者を先着順で決定します。当選者には、メールあるいは葉書でお知らせします。

サイエンスカフェ@待兼山

土曜日の屋下がり、大阪大学総合学術博物館でサイエンスカフェを楽しみませんか。
 阪大博物館のサイエンスカフェも2年目を迎えました。昨年は初めての経験で手探りで始めましたが、おかげさまで大好評でした。コーヒーを片手にクッキーをつまみながら「科学する」とはどういうことかを、研究者とともに考えていきます。そのことを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと願っています。
 大阪大学の総合学術博物館、理学研究科、基礎工学研究科、文学研究科の教員や院生有志がコーディネーターを務める予定です。

カフェ番号 ^{*1}	予定日	コーディネーター	所属 ^{*2}	タイトル	対象
38	12/19	深川 聡子	文	やってみよう！ 現代フランス文学の言葉遊び	制限なし・親子連れ歓迎 (国語辞典の冊子体が必要)
39	2010/1/9	芝井 広	理	太陽系外に生命は存在するか？	高校生以上
40	1/16	坂尻 彰宏	文	シルクロードと日本	中学生以上
41	1/23	寺前 直人	文	馬形壇輪はなぜ復元できたのか？	高校生以上
42	1/30	川野聡恭	基	いろいろな電池	制限なし
43	2/13	家高 洋	文	弁証法の魅力	高校生以上
44	3/6	横田 洋	博	大学博物館を考える	制限なし
45	3/13	豊田二郎	博	ホテルの光のひみつ	制限なし
46	3/20	江口太郎	博	磁石と電波でからだをみる？	中学生以上

*1 ○つきのカフェは豊中市教育委員会との共催です。

*2 博：総合学術博物館、理：理学研究科、基：基礎工学研究科、文：文学研究科

開催場所： 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室

開催時間： 毎回午後2時から3時半まで(午後5時閉館)

定員： 各回とも30名程度

参加費： 飲み物代(200円)が必要

申込方法： Webフォームによる申し込み、あるいは
 往復葉書(カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記。ご家族でお申込の場合は、一緒に参加を希望される方のお名前、年齢をご記入ください。)
 〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 大阪大学総合学術博物館
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

申込期間： 各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前まで(必着)

原則として参加者を抽選で決定します。当選者には、メールあるいは葉書でお知らせします。

カフェ番号	予定日	コーディネーター	所属	タイトル	対象	要旨
28	2009 7/11	小倉 明彦	理学 研究科	味の話	小学生～一般 (親子連れ歓迎)	同じコーヒーを飲んで、私の感じている味と、あなたの感じている味は同じでしょうか？そもそも食物の味って何でしょうか？味を舌だけで味わっていると思ったら大間違い。簡単な実験をしながら、考えてみましょう。
29	7/25	新井 健生	基礎工学 研究科	ロボットと仲良くしよう	中学生以上が 望ましい	6本足の昆虫型ロボットや人型ロボットの動作の実演を行います。触ったり、操縦したりして、ロボットの仕組みや働きを理解します。そして、このようなロボットたちが世の中でどのように役に立つかを一緒に考えてみたいと思います。
30	8/8	藤田 佳孝	理学 研究科	宇宙から極微の世界まで(II) —自然界に於ける保存則—	高校生以上	宇宙から極微の世界まで・・・現実には目の前に広がる自然からはじめ、人類が認識しているより大きな世界：星、銀河、宇宙、またより小さな世界：分子、原子、原子核、クォークと、我々は自然界に対する認識を広めつつあります。しかし見た目の多様さとは異なり、自然界は驚くほど単純で基本的な要素の組み合わせで出来ているようです。たとえば、おおもとの力（相互作用）は、重力、電気磁気力、弱い相互作用、強い相互作用の四つしかありません。また大宇宙から原子核、クォークの極微の世界まで、エネルギー、運動量、角運動量、電荷などの「物理量」が保存されているようです。そのような力や保存則について、しばし思いを馳せてみましょう。
31	8/22	廣川 和花	総合学術 博物館	歴史学研究のフロンティア	中学生以上	大学の歴史学専攻では、環境史や科学技術史など、高校までには習わない分野の研究が進められています。「疾病史」もそうした文理融合的な新しい研究分野の一つです。病気や医学は自然と人間の相互作用の歴史であり、現在の医療をとりまく環境はその重層のうえに成り立っています。新型インフルエンザなど、現代の病気や医療をとらえるリテラシーを身につけることがこのカフェの目標です。
32	8/29	上田 貴洋	総合学術 博物館	熱と温度の話	小学 5、6 年生 以上	我々が、熱く感じたり、冷たく感じたりするのは、温度が変わるからです。これは、物質のもつ熱エネルギーと密接に関係しています。では、温度が変わって、どういうことでしょうか。我々の身の回りの現象を例にとって、温度と熱の関係について考えてみたいと思います。
33	9/5	蔵田 浩之	理学 研究科	炭素をもっと知ってみよう	中学生以上	炭素は、私たちにとって最も身近であると共に、最も重要な元素といっていでしょう。鉛筆の芯が炭素ならば、ダイヤモンドも炭素。また、私たちの身体は炭素なしでは成り立ちません。本カフェでは池田炭から機能性有機化合物、そしてカーボンナノチューブに至るまで、炭素にまつわる様々な話を紹介し、この多彩（多才）な元素に対する認識を新たにしてもらえれば、と思っています。
34	9/19	道下 雄大	薬学 研究科	植物の見分け方の話	高校生以上	植物を見分けるためには、様々なコツがあり、書物では得られない知識・経験を積み重ねる必要があります。名前を知りたい植物(カフェを汚さないもの)があれば各自持参し、五感を使いながらコツを身につけましょう。そもそも、植物を見分けるとはどういうことなのでしょう？
35	10/10	佐藤 尚弘	理学 研究科	ゴムはどうして伸びるの？ —ものの性質のなぜ？なに？—	制限なし	ゴムはどうして伸びるの？紙おむつはどうして水をそんなに吸収するの？ボールはどうして弾むの？電気を通すものってどんなもの？ろうそくはどうして燃えるの？スケートはなぜ滑るの？日ごろ何の気なしに使っている身近なものの様々な性質を見直してみよう。
36	10/17	中村 征樹	大学教育 実践センター	身の周りのもののデザイン	中学生以上	世の中を見渡すと、私たちの身の回りは人工物にあふれています。それらの人工物は、一見、哲学や思想とは無縁のように見えます。しかし、そのような人工物にこそ、思想や哲学、政治、社会関係が、具体的な「かたち」をもって埋め込まれているという考え方が、近年、注目されるようになってきました。当日は、参加者のみなさんと、身の周りのもののデザインをとおして、技術と社会の関係について考えてみたいと思います。
37	10/31	岩井 成憲 山元 淳平	基礎工学 研究科	かえるの子はかえる —遺伝子の正体、DNA とは—	高校生以上	『鶯が鷹を産む』というのはたとえの一つであり、言葉どおりのことは起こりえません。あくまで『かえるの子はかえる』、『子は親に似る』です。遺伝子やDNAって何？その構造や機能について、化学的見地からお話したいと思います。

カフェ番号	予定日	コーディネーター	所属	タイトル	対象	要旨
38	12/19	深川 聡子	文学研究科	やってみよう！現代フランス文学の言葉遊び	制限なし・親子連れ歓迎（国語辞典の冊子体が必要）	しり取り、逆言葉、数え歌、俳句…日常使っている言葉に、何らかのルール=制約をあてはめることで遊びが生まれることを、私たちは経験的に知っています。1960年フランスで発足した「ウリボ（潜在的文学工房）」の作家たちは、ルールに則った文学創造をきわめて意識的におこなってきました。彼らのさまざまな創作の技法を紹介し、彼らにならって実際にことばで遊んでみたいと思います。
39	1/9	芝井 広	理学研究科	太陽系外に生命は存在するか？	高校生以上	太陽系外の惑星がすでに300個以上、発見されている。これらの惑星のほとんどは、太陽系の惑星と似ても似つかぬものであり、生命活動が存在することを示唆する証拠はない。はたして生命が存在する星は地球以外にあるのだろうか。
40	1/16	坂尻 彰宏	文学研究科	シルクロードと日本	中学生以上	ユーラシア大陸の各地を縦横に結びつけていた「シルクロード」は、日本にも大きな影響を与えていました。シルクロードの交通・交易が盛んに行なわれ、遣唐使などを通じて日本と大陸との交流もみられた中国の唐時代を中心に、日本とシルクロードとのかかりについて、最新の研究成果も交えてお話しします。
41	1/23	寺前 直人	文学研究科	馬形埴輪はなぜ復元できたのか？	高校生以上	博物館などで見かける考古資料のなかでも、土器や埴輪には、欠損部分を石膏などで補填した復元品をみかけることがあります。これは考古学者の思いつき？それとも想像でしょうか？今回は出土品の復元方法やその根拠について、総合学術博物館に展示している待兼山5号墳出土の馬形埴輪を題材に紹介していきます。
42	1/30	川野 聡恭	基礎工学研究科	いろいろな電池	制限なし	地球に優しいエネルギーに関連して注目されているリチウムイオン二次電池、太陽電池および燃料電池などの動作原理を簡単に説明します。また、果物電池を用いたデモンストレーションも予定しています。
43	2/13	家高 洋	文学研究科	弁証法の魅力	高校生以上	古代ギリシア以来、弁証法は西洋哲学の基本的な考え方の一つです。ヘーゲルまでの弁証法の歴史をたどりつつ、みなさんといっしょに弁証法的に考えることを通じて、その魅力を味わってみましょう。
44	3/6	横田 洋	総合学術博物館	大学博物館を考える	制限なし	近年、大学付属の博物館が増えています。そもそも大学博物館の役割とは何でしょうか？一般の公立・私立の博物館と何が異なるのでしょうか？学生にとって、研究者にとって、そして一般の来館者にとって、「大学の」博物館はどのようにあるべきでしょうか？大学博物館について語り合しましょう。
45	3/13	豊田 二郎	総合学術博物館	ホタルの光のひみつ	制限なし	ホタルを素手でとったことがありますか？熱かったですでしょうか？いまでは、アニメ映画「火垂るの墓」でしかホタルを知らない人も多いかもしれません。ホタルが光るしくみとまったく同じことを試験管の中で行い、電灯とは違う光（化学発光）の性質と酵素反応について、参加者全員に体験していただきます。
46	3/20	江口 太郎	総合学術博物館	磁石と電波でからだをみる？	中学生以上	電波といえば、テレビ、ラジオ、携帯電話などが頭に浮かびます。磁石といえば、メモ用紙を冷蔵庫などにとめるマグネット、ビップエレキバンなどでしょうか。その二つを組み合わせ、どのようにして人体を観るのか。最近病院で導入されているMRIについて、考えてみたいと思います。

4.4 夏の小学生科学体験教室

主催：大阪大学総合学術博物館、とよなかサイエンスネット実行委員会

時期：平成21年8月24日～27日

文系、理系を問わず様々な分野に対する興味や関心を、子どもたちに持ってもらうことを目指して「夏の小学生科学体験教室」を開催した。昨年度と同じく自由応募制(小学校5、6年生対象)という形をとり、大阪大学総合学術博物館と豊中市とで連携して開催した。当館及び理学研究科所属の講師4人が実験、実演を交えた体験型理科授業を行い、当日は子どもたちの元気な声のとびかった。(当日の出席者数はのべ91名)。



「手作り分光器で光を分けてみよう。」



「カラフルなマイクロカプセルをつくろう！」



「豊中の村々の歴史をしらべてみよう」



「冷やせ！ -195℃の不思議な世界」

「夏の小学生科学体験教室」授業内容

8月24日

タイトル：「カラフルなマイクロカプセルをつくろう！」

講師：松本 幸三 助教（理学研究科）

参加人数：27人

概要：マイクロカプセルは大きさが0.001～0.1ミリメートルの範囲にある小さな容器の総称です。いろいろな色を閉じ込めたカプセルを実際に作ってみましょう。

8月25日

タイトル：「冷やせ！-195℃の不思議な世界」

講師：宮久保 圭祐 助教（理学研究科）

参加人数：27人

概要：身の回りのものを思いっきり冷やして-195℃近くまで冷やすと、普段見ているのとは違う性質が表れてきます。いろいろなものを冷やしてみましょう。

8月26日

タイトル：「手作り分光器で光を分けてみよう。」

講師：上田 貴洋 准教授（総合学術博物館）

参加人数：26人

概要：小さな箱の中に虹を作ろう！簡単な道具を使って自分だけの分光器（光を分ける道具）を作ります。「手作り分光器」で色々な光を分けてみよう。

8月27日

タイトル：「豊中の村々の歴史をしらべてみよう」

講師：廣川 和花 助教（総合学術博物館）

参加人数：11人

概要：かつて待兼山周辺にあった「桜井谷」（現在の刀根山～北緑丘～緑丘～上野東境界）という村々が、どのようにして現在の姿になったのか、昔の地図や絵図などを見ながら調べてみましょう。

4.5 専任教員活動報告

平成21年度教員実績表(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

職名・氏名 准教授・高橋 京子

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
薬学研究科博士課程前期	薬用資源学
共通教育基礎セミナー	博物館体験コース (分担)

学生指導

学生数 (留学生含む)	留学生数	共同・分担した指導教官人数
4	0	0

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
Taraxacum 属生薬を介した地域サステナビリティに関する基盤研究 (修士論文)	主査
性差に基づく伝統医薬品の応用: Enterolactone および 当帰芍薬散 (修士論文)	主査

学外での教育活動 (集中講義等)

授業科目名	機関名	期間
健康福祉学科講義・漢方薬入門 I、II	兵庫県阪神シニアカレッジ	2009年7・10月

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Tool from traditional medicines is useful for health-medication: Bezoar Bovis and taurine.	<u>Takahashi K.</u> Azuma Y, Kobayashi S, Azuma J, Takahashi K, Schaffer SW, Hattori M, Namba T.	<i>Adv Exp Med Biol,</i>	643: 95-103	2009

Beneficial effect of taurine treatment against doxorubicin-induced cardiotoxicity in mice.	Ito T, Muraoka S, <u>Takahashi K</u> , Fujio Y, Schaffer SW, Azuma J.	<i>Adv Exp Med Biol</i> ,	643: 65-74	2009
Experimental adjustment on drug interactions through intestinal CYP3A activity in rat: Impacts of kampo medicines repeat administered.	Kinoshita N, Yamaguchi Y, Hou XL, <u>Takahashi K</u> , Takahashi Ko	<i>Evid. Based. Complement. Alternat. Med.</i>	eCAM, doi:10.1093/ecam/nep159	2009
Curdione plays an important role in the inhibitory effect of <i>Curcuma aromatica</i> on CYP3A4 in Caco-2 Cells.	Hou XL, Nakamura E, Nakase T, Tanaka K, <u>Takahashi K</u> , Komatsu K, Takahashi Ko,	<i>Evid. Based. Complement. Alternat. Med.</i>	eCAM ; doi: 10.1093/ecam/nep229	2010

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
Basics of Evidence-based Herbal Medicine (ed.Satoh H) An approach towards avoidance of pharmacokinetic interaction by Kampo formulations	<u>Takahashi K</u> , Takahashi Ko (執筆分担)	Research Sognpost Kerala, India	19-36	2010
Basics of Evidence-based Herbal Medicine (ed.Satoh H) An approach towards avoidance of pharmacokinetic interaction by Kampo formulations	Takahashi K (執筆分担)	Research Sognpost Kerala, India	69-88	2010

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
大阪大学総合学術博物館 第3回特別展：「21世紀の薬箱 新しい医療文化の形成」	大学博物館等協議会 ニューズレター	2009

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
平成21年度教と漢方研究会講演 洪庵の薬箱に秘められた最先端の医療	京都薬科大学	4/19 (2009)	
薬用資源とサステナビリティ学	大阪府薬業会館	10/28 (2009)	
医薬品素材としての生薬：基原植物と作用	大阪大学中之島センター	6/17 (2009)	

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
Taraxacum 属植物を介したキャンパスサステイナビリティの展開	第4回博物科学学会(鹿児島)	5/21-22, 2009	口頭発表
Taraxacum 属生薬の品質評価：セルフメディケーション活用のために	第26回和漢医薬学会(千葉)	8/29-30, 2009	口頭発表
Quality and Safety Issues Related to Traditional Animal Medicine: Role of Taurine	The 17 th International Taurine Meeting, Florida USA	2/14-19 2009	口頭発表
当帰芍薬散の薬効：配合生薬品質からの視点	第56回日本生薬学会、(京都)	10/3-4, 2009	口頭発表
漢方薬の臨床効果は構成生薬の品質を反映する	第83回日本薬理学会(大阪)	3/16-17 2010	口頭発表
『緒方洪庵の薬箱（大阪大学所蔵）』由来生薬名から見る実地医療の考察	第130回日本薬学会(岡山)	3/16-17 2010	口頭発表
芍薬の品質評価におけるメタロミクスの応用	第130回日本薬学会(岡山)	3/16-17 2010	口頭発表

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
OSPF 財団研究助成「OTC 薬のセルフメディケーション活用：人材育成プログラムデザインに関する調査研究」	高橋京子	2009-2010	新規
OSPF 財団研究助成「OTC 薬のセルフメディケーション活用：人材育成プログラムデザインに関する調査研究」	高橋直子（分担）	2009-2010	新規
武田科学振興財団 杏雨書屋研究助成 近世蘭方移入と日本の感染症治療に関する総合的研究：杏雨書屋所蔵の関連書籍の分析を通じて	島田佳代子（分担）	2009-2010	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
第7回サイエンスカフェ待兼山：道下雄大、「植物の見分け方の話」	大阪大学総合学術博物館・待兼山修学館	サイエンスカフェ待兼山	9/19, 2009
基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」：「五感で感じる薬用植物の世界」：道下雄大	大阪大学薬学研究科	大阪大学総合学術博物館・薬学研究科	6/5, 2009

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
大阪大学グローバルラボセンター	2009年4月		新規

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本薬理学会	学術評議員		継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・全学部・1 年	共通教育基礎教育科目・大阪大学の歴史
1 学期・文系学部・1 年	共通教育基礎教育科目・化学の考え方
2 学期・理学部・1 年	共通教育専門基礎教育科目・基礎化学 2
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学 (共担)
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーI (共担)
2 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーI (共担)
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーII (共担)
2 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーII (共担)
1, 2 学期・理学研究科・博士後期課程	核磁気共鳴分光学特別セミナー

学生指導

学生数 (留学生含む)	留学生数	共同・分担した指導教官人数
5		2

学外での教育活動 (集中講義等)

授業科目名	機関名	期間
科学技術論	兵庫県立大学理学部	2009. 9. 2-9. 3
大学博物館と教育・研究	放送大学	2009. 11. 14・21

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Preparation and characterization of inclusion compounds using TEMPOL and an organic 1-D nanochannel as a template	H. Kobayashi, T. Ueda, K. Miyakubo, T. Eguchi, A. Tani	<i>Mol. Cryst. Liquid Cryst.</i>	506 , 150-167	2009 年 8 月
Pore structure of hard carbon made from phenolic resin studied by ^{129}Xe NMR	K. Gotoh, T. Ueda, T. Eguchi, K. Kawabata, K. Yamamoto, Y. Murakami, S. Hayakawa, H. Ishida	<i>Bull. Chem. Soc. Jpn.</i>	82 , 1232-1239	2009 年 10 月

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
大阪大学の歴史 (第 3 章)	江口太郎	大阪大学出版会	pp. 21-33	2009 年

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
大阪の科学技術史と博物館展示	『化学史研究』第36巻、第2号、102-103	2009
広範な世代への化学的思考の伝達手法 の設計と啓発の実践	『化学と工業』Vol. 63, No. 3	2010年3月

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
大阪大学初任者研修	待兼山修学館	2009年4月16日	
大阪の科学技術史と博物館展示	大阪大学	2009年7月4日	化学史研究会
固体NMRの応用 ～ ¹²⁹ XeNMRを中心にして～	神戸商工貿易 センタービル	2009年10月9日	第21回高分子 学会 NMR 講座
ナノ空間中の分子運動を NMR で眺めてきて	基礎工学部	2009年 12月11日	基礎工学部合 成化学コース 特別講演
「大阪大学の歴史」と博物館展示	実践センター	2010年3月14日	大学生活入門 セミナー
広範な世代への化学コミュニケーション・ デザイン	近畿大学	2010年3月27日	化学教育賞 受賞講演

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
Local Structure and Xenon Adsorption Behavior of Metal-Organic Frameworks as Studied by X-ray Diffraction, Adsorption Isotherm, and Xenon-129 NMR	The 4th International Symposium on Xenon NMR of Materials (XEMAT-2009), Ruka, Finland	2009年6月8日 -10日	連名
ACF ナノ空間における CHCl ₃ /CCl ₄ 混合分子系 の動的構造と物性	第62回コロイ ドおよび界面化 学討論会, 岡山	2009年9月17 日-19日	連名
多孔性金属錯体がつくるナノ空間への電解 質溶液の吸蔵に関する研究	第3回分子科学 討論会, 名古屋	2009年9月21 日-24日	連名
配位高分子亜鉛錯体 IRMOF-1 に吸着したゲスト 分子が示す動的構造と相転移現象	第3回分子科学 討論会, 名古屋	2009年9月21 日-24日	連名
FSM-16 のメソ細孔内に形成される不凍水の 分子運動と局所構造の固体 NMR による研究	第3回分子科学 討論会, 名古屋	2009年9月21 日-24日	連名
疎水性ナノチャンネルに吸着した水分子の 水素結合ネットワーク形成とプロトン伝導	第3回分子科学 討論会, 名古屋	2009年9月21 日-24日	連名
トリスエチレンジアミンコバルト(III)塩化 物結晶に吸着されたゲスト分子の動的構造 と物性	第23回日本吸 着学会研究発表 会, 豊橋	2009年11月 27日-28日	連名

【共同研究および外部資金獲得状況】

寄付

寄付名	寄付者名	金額	受入年月	継続/新規
資料先端研究助成金	ブルヂストーン	30万円	2009年4月	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
サイエンスカフェ@待兼山“土曜の午後はミュージアム”(No. 46)「磁石と電波でからだをみる？」	待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2010年3月20日

学内の各種委員等

- ・博物館運営委員
- ・部局長会議メンバー
- ・豊中地区部局長会議メンバー
- ・創立80周年記念事業委員会委員
- ・大学教育実践センター運営協議会委員
- ・埋蔵文化財調査委員会委員(平成21年4月1日～平成23年3月31日)
- ・産官学連携問題委員会委員
- ・図書館委員会委員(平成21年4月21日～平成23年3月31日)
- ・懐徳堂記念会 学術専門委員(平成21年4月1日～平成23年3月31日)
- ・発明委員会委員
- ・教育研究評議会オブザーバー
- ・大学博物館等協議会メンバー
- ・適塾記念会 幹事・評議員
- ・文書館設置WGメンバー
- ・大阪大学と大阪市の連携協議会メンバー
- ・化学教育機器リノベーションセンター・(豊中)文理融合型総合研究合築等(仮称)検討WG

学外各種委員等(地方公共団体や学協会など)

- ・近畿化学協会 理事
- ・日本化学会 化学だいすきクラブ小委員会委員
- ・大阪大学生生活協同組合 総代
- ・洪庵全集コア委員会委員
- ・啓林館 中学校理科教科書 編集委員(平成20年4月18日～平成22年3月31日)
- ・兵庫県立大学非常勤講師(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

- ・日本核磁気共鳴学会評議員（平成 21 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）
- ・豊中市教育委員会とよなかサイエンスネット実行委員会委員長
（平成 21 年 7 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）
- ・近畿化学協会化学技術賞審査委員会 委員（平成 21 年 9 月 1 日～平成 23 年 8 月 31 日）
- ・放送大学大阪学習センター非常勤講師(平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

【受賞・顕彰】

受賞・顕彰	主催団体名	受賞年月	備考
日本化学会化学教育賞	日本化学会	2010年3月27日	(第34回)

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・工学部電子情報工学科・1 年	共通教育専門基礎教育科目・化学概論
1 学期・医学部医学科/薬学部薬学科・2 年	共通教育専門基礎教育科目・化学実験
1 学期・工学部応用理工学科・1 年	共通教育専門基礎教育科目・化学実験
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学 (共担)
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーI (共担)
2 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーI (共担)
1 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーII (共担)
2 学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学セミナーII (共担)

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Preparation and characterization of inclusion compounds using TEMPOL and an organic 1-D nanochannel as a template	H. Kobayashi, T. Ueda, K. Miyakubo, T. Eguchi, A. Tani	<i>Mol. Cryst. Liquid Cryst.</i>	506 , 150-167	2009 年 8 月
Pore structure of hard carbon made from phenolic resin studied by ^{129}Xe NMR	K. Gotoh, T. Ueda, T. Eguchi, K. Kawabata, K. Yamamoto, Y. Murakami, S. Hayakawa, H. Ishida	<i>Bull. Chem. Soc. Jpn.</i>	82 , 1232-1239	2009 年 10 月

研究 (学会) 発表など

タイトル	場所	年月日	備考
Local Structure and Xenon Adsorption Behavior of Metal-Organic Frameworks as Studied by X-ray Diffraction, Adsorption Isotherm, and Xenon-129 NMR	The 4th International Symposium on Xenon NMR of Materials (XEMAT-2009), Ruka, Finland	2009 年 6 月 8 日 - 10 日	連名
NMR 測定の基本と吸着現象への応用	第 19 回吸着シンポジウム (吸着夏の学校), 長野	2009 年 8 月 22 日 - 23 日	単名
ACF ナノ空間における $\text{CHCl}_3/\text{CCl}_4$ 混合分子系の動的構造と物性	第 62 回コロイドおよび界面化学討論会, 岡山	2009 年 9 月 17 日 - 19 日	連名
多孔性金属錯体がつくるナノ空間への電解質溶液の吸蔵に関する研究	第 3 回分子科学討論会, 名古屋	2009 年 9 月 21 日 - 24 日	連名
配位高分子亜鉛錯体 IRMOF-1 に吸着したゲスト分子が示す動的構造と相転移現象	第 3 回分子科学討論会, 名古屋	2009 年 9 月 21 日 - 24 日	連名

FSM-16 のメソ細孔内に形成される不凍水の分子運動と局所構造の固体 NMR による研究	第 3 回分子科学討論会, 名古屋	2009 年 9 月 21 日 - 24 日	連名
疎水性ナノチャンネルに吸着した水分子の水素結合ネットワーク形成とプロトン伝導	第 3 回分子科学討論会, 名古屋	2009 年 9 月 21 日 - 24 日	連名
トリスエチレンジアミンコバルト(III)塩化物結晶に吸着されたゲスト分子の動的構造と物性	第 23 回日本吸着学会研究発表会, 豊橋	2009 年 11 月 27 日 - 28 日	連名

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
「配位高分子錯体においてゲスト分子集団が示す協同現象の解明と機能性材料への展開」 基盤研究 (B) (一般)	上田貴洋	H21~H23	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
「高圧ガス製造保安責任者・平成 21 年度乙種機械講習講義」	天満研修センター	高圧ガス保安協会・近畿支部	2009 年 5 月 19 日
サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム” (No. 8) 「身の回りのものをつくっているものはなあに？分子の大きさを実感する方法を考えよう！」	待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2008 年 7 月 5 日
平成 21 年度千里ネイチャー・カレッジ” 観て・触れて・考える “『自然・体験学習会』第 2 回おもしろ科学実験 講師「果物・野菜で乾電池を作ろう」	大阪大学・大学教育実践センター化学棟	財団法人 千里ライフサイエンス振興財団	2009 年 8 月 1 日
夏の小学生科学体験教室 講師「手作り分光器で光を分けてみよう。」	待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2009 年 8 月 26 日
サイエンスカフェ@待兼山 (No. 32) 「熱と温度の話」	待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2009 年 8 月 29 日
第 13 回サイエンスカフェ 講師「芳香—においと分子の微妙な関係—」	豊中市教育センター	豊中市教育センター、タッチ・座・サイエンス事業	2009 年 12 月 26 日
「高圧ガス製造保安責任者・平成 21 年度乙種機械講習講義」	天満研修センター	高圧ガス保安協会・近畿支部	2009 年 2 月 9 日

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
総合学術博物館湯川記念室委員会委員	2008年10月		継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
とよなかサイエンスネット実行委員会	委員	2008年7月～	継続
豊中市教育振興計画検討会議市民委員選考委員会委員	委員	2009年5月	新規

職名・氏名 准教授・豊田二郎

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・実践センター・1 年	化学概論
1 学期・実践センター・2 年	自然科学実験 2 化学
1 学期・実践センター・2 年	化学実験
1 学期・実践センター・1 年	博物館体験コース
1 学期・理学研究科・前期課程	核磁気共鳴分光学(I)
1 学期・理学研究科・前期課程	核磁気共鳴分光学半期セミナーI
1 学期・理学研究科・前期課程	核磁気共鳴分光学半期セミナーII
2 学期・理学研究科・前期課程	核磁気共鳴分光学半期セミナー I
2 学期・理学研究科・前期課程	核磁気共鳴分光学半期セミナーII

【研究活動】

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
基礎化学実験法 2010	大阪大学化学 教育研究会	学術図書出版 社		2010

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
QR コードを用いた標本管理について	鹿児島大学	5 月 21 日	

【データベースの構築や入力件数など】

題 目	件数	期間	備考
南アジアの美術・遺跡の写真資料	14375		更新

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
ホテルの光のひみつ	大阪大学	夢化学（高校生一日体験入学）	8 月 1 日
サイエンスカフェ ホテルの光のひみつ	大阪大学	総合学術博物館	3 月 13 日

たのしい化学実験教室	大阪府立東住吉 高校	ヒガスマカル チャーNPO	11月14日
------------	---------------	------------------	--------

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
大学教育実践センター兼任教員	2008年3月		継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本化学会 ホームページ管理委員会	委員長	1996年4月	継続
ヒガスマ・カルチャー・NPO	委員	2004年12月	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
前期 学部、修士課程	日本美術史演習
前期 博士課程	日本美術史特殊演習
後期 学部、修士課程	日本美術史演習
後期 博士課程	日本美術史特殊演習
後期 学部、修士課程	日本美術史講義
後期 博士課程	日本美術史特殊講義
通年 学部 修士課程 博士課程	日本美術史演習
前期	博物館体験コース
前期	東洋美術史

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
23		3（日本東洋美術史）

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
同志社大学大学院文学研究科 博士論文審査（芸術学博士） 中間志織「岸田劉生「麗子像」の受容論—都市新中間層にとっての「で ろり」」	副査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
日本東洋美術史（集中講義）	愛知県立芸術大学	
講演	大阪夕陽丘学園短期 大学	

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
「都市の“記憶”の幻影——街に漂う“工芸”的なるもののイメージ」	橋爪節也	『美術フォーラム21』醍醐書房	第19号 特集：工芸史研究の現在	2009年5月30日発行

「佐伯祐三の帰国時代—《下落合風景》《滞船》シリーズの連作と意義—」	橋爪節也 新宿歴史博物館編	「佐伯祐三展—下落合の風景—」 図録	新宿区立佐伯祐三アトリエ記念館 開館記念	2010年3月 発行
------------------------------------	------------------	--------------------	-------------------------	---------------

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
『映画「大大阪観光」の世界 - 昭和12年のモダン都市 - 』（大阪大学総合学術博物館叢書4）	橋爪節也編著	大阪大学出版会	全94頁	2009年5月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
「美術 大阪画壇とその潮流 曰く撰派—大阪画壇を知っていますか」	橋爪節也監修・創元社編集部編『大阪の教科書—大阪検定公式テキスト—』創元社	2009年
「博物場」26・27頁、「桃畑」54・55頁、「茶臼山」66・67頁、「生国魂神社」80・81頁、「高津宮」82・83頁、「戎橋」92・93頁、「松井吉助庭」106・107頁、「津田是斎薬舗」122・123頁、「天保山砲台」164・165頁、「富島波止場」166・167頁、「鮪之松」194・195頁、「天神祭」240・241頁の各項	熊田司・伊藤純編『森琴石と歩く大阪』創元社	2009年8月5日発行
「西国橋—「大大阪」自慢の美観地区」	産経新聞連載「浪花八百八橋」	2009年4月16日
「なぜ、大阪市立近代美術館は建たないか—20年間も「まあだだよ」では、内田百閒じゃあるまいし—」	『視覚の現場』創刊号 醍醐書房	2009年5月12日発行
「新橋—おもちゃが伝える“大大阪”」	産経新聞連載「浪花八百八橋」	2009年5月28日
佐伯祐三展解説	新潟日報	2009年6月
「“水都の美”の発見者、織田一磨 — 石版画集《大阪風景》より—」	『大阪春秋』第135号 平成21年夏号「特集水の都おおさかⅡ」新風社	2009年7月1日発行
「瓦屋橋—上方芝居の古蹟 風情跡形もなく」	産経新聞連載「浪花八百八橋」	2009年7月4日
「佐伯祐三はここにいる—没後80年、現代の新しい佐伯祐三像を求めて—」	『BM美術の杜』通巻20号記念特別合併号 美術の杜出版	2009年8月10日発行
「上之橋—小京都のおもむきの風景」	産経新聞連載「浪花八百八橋」	2009年9月12日

「大版的“知”と“感性”の源流—木村兼葭堂のこと—」	懷徳堂記念会「記念会だより」No.84	2009年9月
「映画「大大阪観光」再考—モダン都市はいかに撮影されたか—」	『大阪春秋』第136号 平成21年秋号「特集 観光都市おおさか」	2009年10月1日 発行
「藤中橋—篤志家のロマン 自分の名で架橋」	産経新聞連載「浪花八百八橋」	2009年10月24日
「大阪検定公式テキスト『大阪の教科書』に執筆した気分—「大阪画壇」復活の背景にあったもの—」	『視覚の現場』第2号 醍醐書房	2009年8月21日 発行
「幻影の“大大阪”再見—映画「大大阪観光」の展覧会を開催して—」	『上方芸能』9月号(第173号)「特集 関西の新舞踊—なぜ広がるのか」	2009年9月10日 発行
「中尾堅一郎さん逝去で気づいたこと—現代につづく大阪人の精神—」	「木村兼葭堂顕彰会会報」	2009年11月
「「水都大阪2009」の開催期間、私はどこに位置したか」	『視覚の現場』第3号 醍醐書房	2009年11月19日 発行
「下大和橋—道頓堀川 あふれる色気」	産経新聞連載「浪花八百八橋」	2009年11月22日
「イメージとしての“大大阪”—モダン都市はいかに語られようとしたか—」(適塾記念講演会より)	「適塾」42号、適塾記念会発行	2009年12月1日 発行
「本の都であった心斎橋を検証する—「新菜箸本撰」—」	『彷彿月刊』特集「ミニコミの設計図」	2009年12月発行
石橋心斎橋101年・巻頭言	「新菜箸本撰」第7号・石橋心斎橋101年号	2010年1月発行
「食満南北を思う その二 南北とその絵画」	「やそしま」第三号、上方文化芸能協会	2010年2月1日 発行
「「勇しき構成美」—小出権重の随筆は本当に理解されて読まれているのか—」	『視覚の現場』第4号 醍醐書房	2010年2月27日 発行
「“モダニストM”とモダン都市 大阪と森村泰昌／森村泰昌の大阪」	『ユリイカ』2010年3月号「特集*森村泰昌 鎮魂という批評芸術」、青土社	2010年3月1日 発行

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
「上方落語の背景—大坂のおもしろグラフィック—」	大阪市立大学	2009年	公開授業「大阪落語への招待」（桂春之輔担当）のゲストスピーカー
シンポジウム「昭和12年のモダン都市へ—都市大阪の虚像と実像—」パネリスト	大阪歴史博物館	2009年 6月13日	主催：大阪歴史博物館・大阪大学総合学術博物館
「池田遊子生誕100年記念展シンポジウム」パネリスト	くずはアートギャラリー	2009年 7月18日	主催：枚方市文化国際財団
「天神祭を描いた絵いろいろ」	大阪大学中之島センター・佐治敬三メモリアルホール	2009年 7月20日	大阪大学中之島講座
水都大阪2009記念シンポジウム「遊びをせんとや生まれけむ—水都大阪の再生」パネリスト、並びにプレゼンテーション「水都の文化力ってなに？」	リーガロイヤルホテル	2009年 9月22日	主催：大阪大学、水都大阪2009実行委員会
「なにわ知の巨人木村蒹葭堂—博物学から文人画まで—」第21回京阪・文化フォーラム「学問都市・なにわ」	大阪大学中之島センター・佐治敬三メモリアルホール	2009年 11月3日	主催：京阪電気鉄道株式会社 大阪大学21世紀懐徳堂
第17回道修町文化講演会「絵を読む—船場・中之島界限を描いた画家と作品—」	大阪薬業クラブ	2009年 11月22日	主催：道修町資料保存会
「木村蒹葭堂の画事について」	南御堂会館	2009年 11月28日	主催：木村蒹葭堂顕彰会
第2回大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム「“大阪弁”で語り合う“かんきょう”!？」	大阪大学中之島センター・佐治敬三メモリアルホール	2010年 1月24日	主催：大阪大学21世紀懐徳堂

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
「都市と美術—モダン都市を大阪の画家たちはどのように描いたか—」	北海道大学大学院文学研究科	2009年 4月25日	主催・北海道芸術学会
美術史学会美術館博物館委員会東西合同シンポジウム「ミュージアムをどう評価するか」	東京都美術館	2009年 5月9日	主催：美術史学会 後援：全国美術館会議、文化資源学会
美術史学会全国大会 発表司会	京都大学	2009年5月	
第51回 意匠学会大会 創立50周年記念シンポジウム「都市とデザイン—国際性と地域性—」 パネリスト	大阪大学文系総合研究棟	2009年7月 12日	
美術史学会 西支部例会担当	大阪市立東洋陶磁美術館	2009年11月 21日	
「大正中後期の大阪画壇変革における北野恒富と島成園の動向—《淀君》《伽羅の薫》の周辺と白耀社展の問題—」	大阪大学文系総合研究棟	2010年3月	待兼山芸術学会

報道

タイトル	場所	年月日	備考
新日曜美術館「佐伯祐三 捨て身の美しさ」に出演・コメント	NHK教育テレビ	再放送（2008年12月21日放送のもの）	
「江戸、そこにある未来 特別編」に出演	BS-TBS(テレビ) 収録場所・適塾	2009年5月 3日放送	監修・構成 奥野卓司 関西学院大学教授、他出演者・白幡洋三郎(国際日本文化研究センター教授) 中牧弘允(国立民族学博物館教授)
インタビュー記事「4つの視点でまちづくりを探る—「大大阪」—」	建築通信新聞	2009年 8月4日	

インタビュー記事「大大阪パワー研究」、週間まちぶら第200回特別編・道頓堀	朝日新聞	2009年 9月13日	
インタビュー記事「70年前の大阪観光 もう一度映画に」	読売新聞夕刊	2009年 9月17日	
関西支社新春企画「羽ばたく大阪づくりー誇れるまちを市民とともに」平松邦夫大阪市長との対談	建築通信新聞	2010年 1月4日	
松本創「ナカノシママニア 中之島が戦艦となって出撃する小説があった」にコメント	「月刊島民」19号	2010年 2月1日	
「壁画どこへ行く 高度成長期の最先端「西長堀アパート」」にコメント。見出し「公立の美術館で保存を」	産経新聞夕刊	2010年 3月23日	

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
「美術館と大阪／中之島と美術館ー失われた“美術都市・大阪”の時代ー」中之島まちみらい協議会・第13回幹事会	大阪大学中之島センター・佐治敬三メモリアルホール	中之島まちみらい協議会	2009年 4月21日
「佐伯祐三とその芸術」 没後80年記念「佐伯祐三展ーパリで夭逝した天才画家の道ー」開催記念	北海道立近代美術館	北海道立近代美術館	2009年 4月25日
「近代美術館のコレクションー市民20年の夢、準備室かく蒐集せり」 大阪市立近代美術館建設準備室「近代日本の美意識ー人物と風景を描くー」展関連イベント	大阪市立総合生涯学習センター	大阪市立近代美術館建設準備室	2009年 5月16日
第14回ミュージアム・レクチャー「《大大阪観光》の映像を読むーメディアが作る“大大阪”イメージ」	大阪大学総合学術博物館待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館、大阪歴史博物館	2009年 6月6日
「“大大阪”時代のモダン都市を絵画・映像に読む」	OMMビル	社団法人日本建築協会	2009年 6月17日
「佐伯祐三とその芸術」 没後80年記念「佐伯祐三展ーパリで夭逝した天才画家の道ー」開催記念	新潟県立万代島美術館	新潟県立万代島美術館	2009年 7月4日
水都大阪2009協賛プラネタリウム・スペシャルナイト「大大阪から、宇宙への旅」・スペシャルトーク「モダン大阪見どころ案内ー私が見た“大大阪観光”ー」	大阪市立科学館 プラネタリウムホール	大阪市立科学館	2009年 9月19日

水都大阪 2009 協賛展示「大大阪の時代と電気」の展示協力	大阪市立科学館	大阪市立科学館	2009年 8月～9月
水都大阪 2009 協賛「大大阪観光」の上映とパネル展示協力	大阪市庁舎市民ロビー	大阪市ゆとりとみどり振興局	2009年8 月22日～ 10月12日
水都大阪 2009「大阪ミナミ水都祭り」の「ミナミ歴史写真展」の企画協力・資料提供	道頓堀川リバーサイド	主催“総衆ミナミ” 実行委員会（心齋橋筋・戎橋筋・道頓堀・宗右衛門町商店街）	2009年 8月開催
サイエンスカフェ「10年後の『大阪』」	大阪大学附属図書館 理工学図書館	主催 Scienthrough 協力 大阪大学附属図書館 理工学図書館 大阪大学コミュニケーション・センター	2009年 10月28日
「三都多彩、東京・京都・大阪の美人画に見る個性—北野恒富、島成園はじめ大阪画壇を中心とした立場から—」 2009年度美術館講座「違いのわかる人になる」	姫路市立美術館	姫路市立美術館	2009年 11月1日
野呂介石展記念講演会「江戸時代の大阪画壇と野呂介石」	和歌山県立博物館	和歌山県立博物館	2009年 11月23日
「繚乱・商都の色彩—北野恒富、島成園、小出楯重など、近代大阪の画家とその作品—」、立命館京都文化講座『大阪・京の色彩』	立命館アカデミア@大阪	主催 立命館大学、 共催 大阪大学 21世紀懐徳堂・立命館大学文学部・立命館大阪オフィス	2009年 12月14日
「高津ルネッサンス・高津宮と文楽—木谷蓬吟と千種—」	高津宮	高津まちづくり推進協議会	2009年 12月23日
大阪大学総合学術博物館 第10回企画展「スペシャル対談」北村昭齋（人間国宝・重要無形文化財保持者） 鷺田清一（大阪大学総長）	大阪大学総合学術博物館待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2010年 2月3日
「謎解き!?!浮世絵『浪花百景』を見よ」ナカノシマ大学2月講座	大阪大学中之島センター・佐治敬三メモリアルホール	ナカノシマ大学	2010年 2月12日

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
美術史学会西支部常任委員会	西支部常任委員	2009年～2010年	継続
美術史学会美術館博物館委員会	美術館博物館委員	2009年～2010年	継続
堺市美術作品等資料評価委員会	堺市美術作品等資料評価委員	2009年12月	新規
京都工芸繊維大学美術工芸資料館 近代デザイン関連資料評価委員会	京都工芸繊維大学美術工芸資料館近代デザイン関連資料評価委員	2010年1・2月	新規
筑波大学プレ戦略イニシアティブ	プレ戦略イニシアティブ学外評価委員	2009年～2010年	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
1 学期・全学・1 年	平和の問題を考える
2 学期・全学・1 年	平和研究入門
1 学期・全学・1 年	博物館体験コース

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
0	0	21

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
「汚い大大阪—水面にうつるモダン都市大阪の衛生環境」	廣川和花	橋爪節也編『映画「大大阪観光」の世界—昭和 12 年のモダン都市—』（大阪大学出版会）	巻号なし・ 78-82 頁	2009 年 4 月
名所「待兼山」の成立—和歌と伝承の近世的受容をめぐって—	廣川和花・ 鳴海邦匡	上方文藝研究	6 号・ 44-57 頁	2009 年 6 月
「旧ハンセン病図書館蔵書の資料的意義—国立ハンセン病資料館移管後の活用に期待して—	廣川和花	ハンセン病図書館旧蔵書目録（国立ハンセン病資料館）	巻号なし・ 15-20 頁	2010 年 3 月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
遠藤隆久他（共著）「特集 第四回交流集会の記録 <パネル 2> 共生の場としての療養所の“社会化”を実現するために」	ハンセン病市民学会年報 2008、40-77 頁	2009 年 4 月
産業技術史資料の廃棄が残した課題	史料ネットニューズレター、 第 57 号、11-12 頁	2009 年 5 月
大阪大学からの長島スタディツアーについて	楓、527 号、40 頁	2009 年 6 月

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
ハンセン病の歴史と草津	草津セミナーハウス	2009年 9月6日	JSA夏の学校
ハンセン病という宿命—地域との共存と共生—	国立民族学博物館	2009年 10月17日	第377回みんなくゼミナール

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
戦前日本のハンセン病医学概観 1890-1930年代	大阪大学	2009年 7月25日	医療・社会・環境研究会
ハンセン病流行の国際的インパクトと日本—19世紀後半～20世紀初頭 (The International Impact of the Prevalence of Leprosy on Colonialism and Japan in the Late 19th / Early 20th Century)	シンガポール国立大学日本研究学科	2009年 9月26日	国際交流基金後援「近世日本における「死」と「終焉」ワークショップ」

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
若手研究（スタートアップ）「近代日本の医学・医療の国際的位置と地域におけるその政策的展開」	廣川和花	2009年4月 -2010年3月	継続
三菱財団人文科学研究助成金「近代大阪の都市衛生環境に関する総合的研究」	廣川和花	2009年9月 -2010年8月	新規
財団法人博報児童教育振興会「ことばと教育研究助成事業「魅力」と「わかりやすさ」を伝える—人文学研究発表の方法論—」	家高 洋	2009年4月 -2010年3月	新規

【データベースの構築や入力件数など】

題目	件数	期間	備考
デジタルアーカイブ化による大阪大学文学部視覚史料の基礎研究	300	2009年	継続

【社会貢献、管理運営等】

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

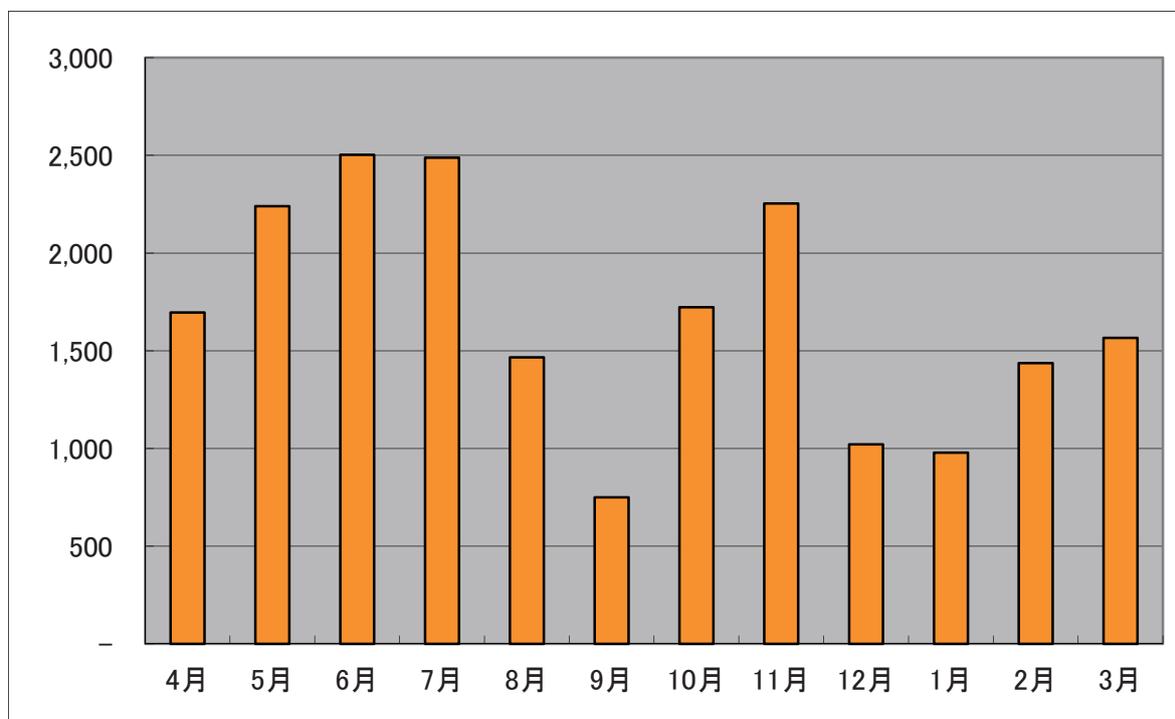
委員会名	役職	期間	継続/新規
大阪歴史科学協議会	編集委員長	2008年6月～	継続

4.6 常設展示来館者数及びアンケート集計結果

4.6.1 常設展示来館者数

	来館者数
4月	1,696
5月	2,240
6月	2,503
7月	2,488
8月	1,466
9月	750
10月	1,723
11月	2,254
12月	1,021
1月	979
2月	1,437
3月	1,566
計	20,123

(人)

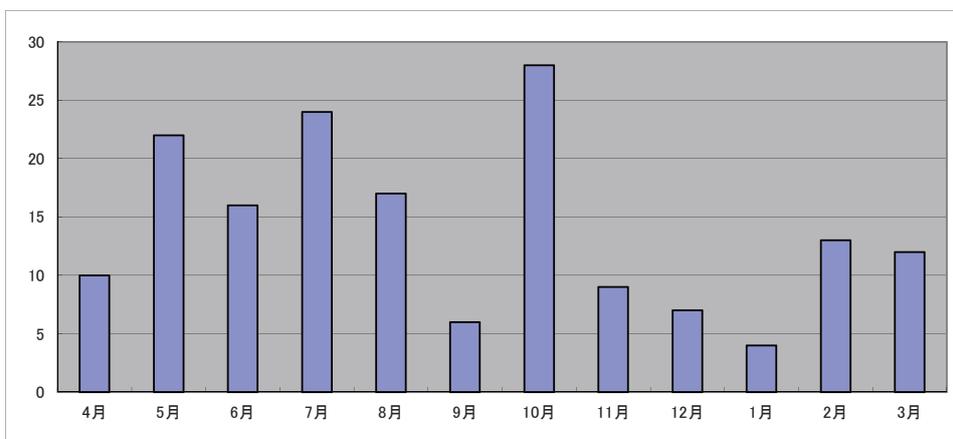


4.6.2 アンケート集計結果

■アンケート回答総数

4月	10
5月	22
6月	16
7月	24
8月	17
9月	6
10月	28
11月	9
12月	7
1月	4
2月	13
3月	12
合計	168

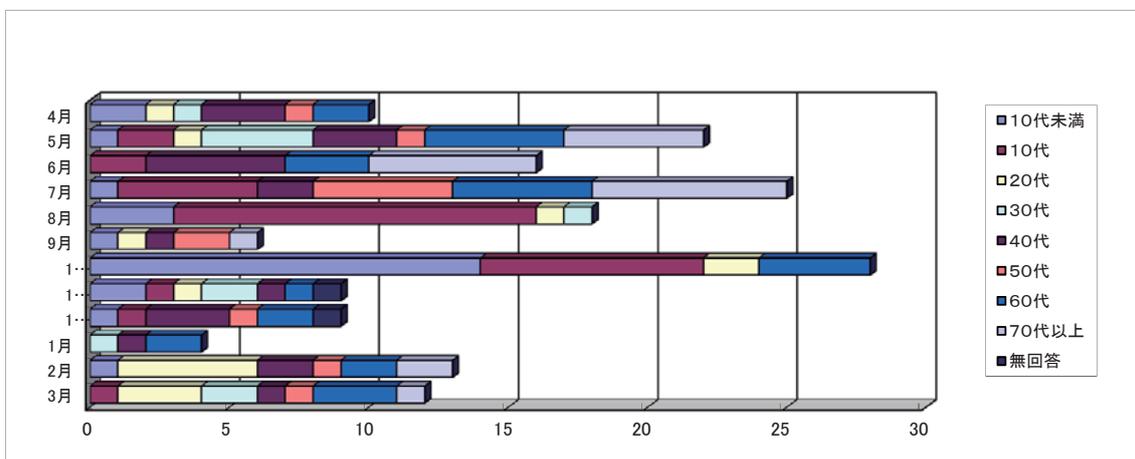
(人)



■年齢分布表

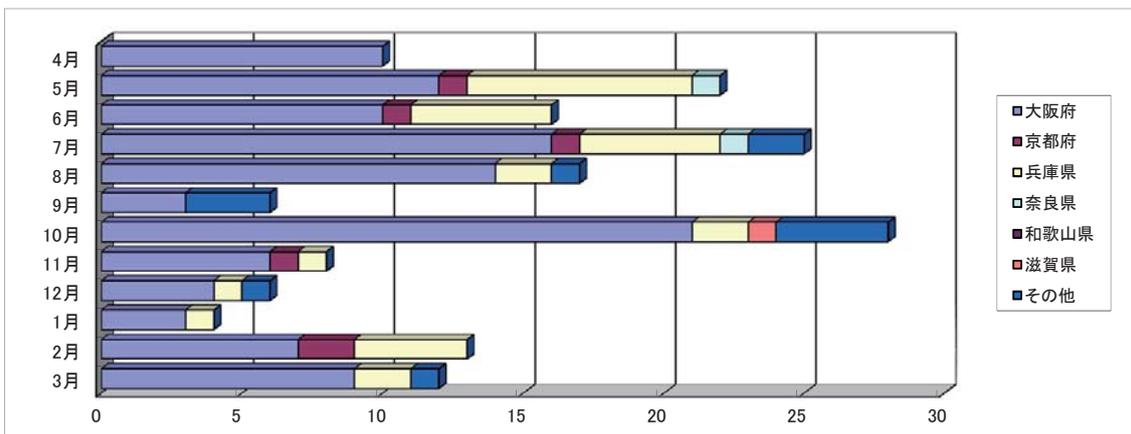
	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
4月	2	0	1	1	3	1	2	0	0
5月	1	2	1	4	3	1	5	5	0
6月	0	2	0	0	5	0	3	6	0
7月	1	5	0	0	2	5	5	7	0
8月	3	13	1	1	0	0	0	0	0
9月	1	0	1	0	1	2	0	1	0
10月	14	8	2	0	0	0	4	0	0
11月	2	1	1	2	1	0	1	0	1
12月	1	1	0	0	3	1	2	0	1
1月	0	0	0	1	1	0	2	0	0
2月	1	0	5	0	2	1	2	2	0
3月	0	1	3	2	1	1	3	1	0
合計	26	33	15	11	22	12	29	22	2

(重複回答4)



■住所分布

	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	滋賀県	その他
4月	10	0	0	0	0	0	0
5月	12	1	8	1	0	0	0
6月	10	1	5	0	0	0	0
7月	16	1	5	1	0	0	2
8月	14	0	2	0	0	0	1
9月	3	0	0	0	0	0	3
10月	21	0	2	0	0	1	4
11月	6	1	1	0	0	0	0
12月	4	0	1	0	0	0	1
1月	3	0	1	0	0	0	0
2月	7	2	4	0	0	0	0
3月	9	0	2	0	0	0	1
合計	115	6	31	2	0	1	12



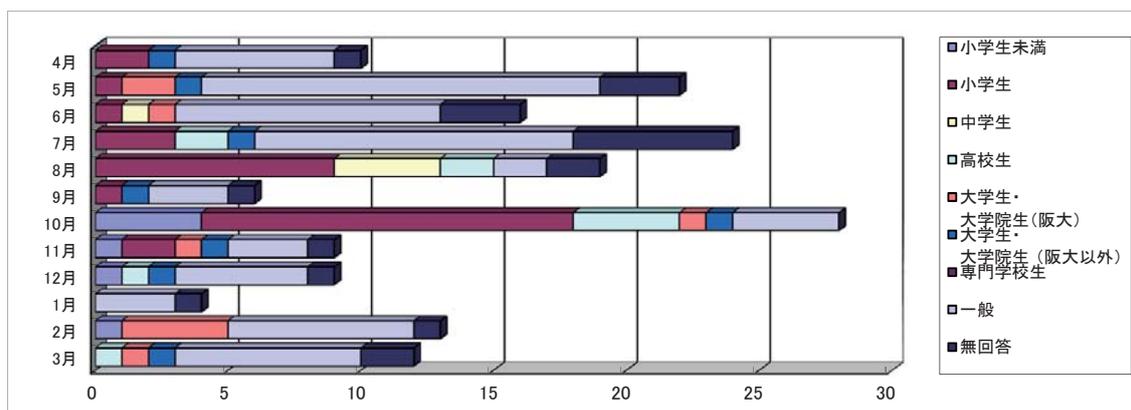
●その他内訳

- (4月) ・吹田市(回答は大阪)
- (7月) ・三重県
- (8月) ・新潟県
- (9月) ・茨城県
・福井県
- (10月) ・鳥取県
・岡山県
・USA
・岐阜県
- (12月) ・マレーシア
- (3月) ・エヒメ

■学年分布

	小学生未満	小学生	中学生	高校生	大学生・ 大学院生 (阪大)	大学生・ 大学院生 (阪大以外)	専門学校生	一般	無回答
4月	0	2	0	0	0	1	0	6	1
5月	0	1	0	0	2	1	0	15	3
6月	0	1	1	0	1	0	0	10	3
7月	0	3	0	2	0	1	0	12	6
8月	0	9	4	2	0	0	0	2	2
9月	0	1	0	0	0	1	0	3	1
10月	4	14	0	4	1	1	0	4	0
11月	1	2	0	0	1	1	0	3	1
12月	1	0	0	1	0	1	0	5	1
1月	0	0	0	0	0	0	0	3	1
2月	1	0	0	0	4	0	0	7	1
3月	0	0	0	1	1	1	0	7	2
合計	7	33	5	10	10	8	0	77	22

(重複回答4)

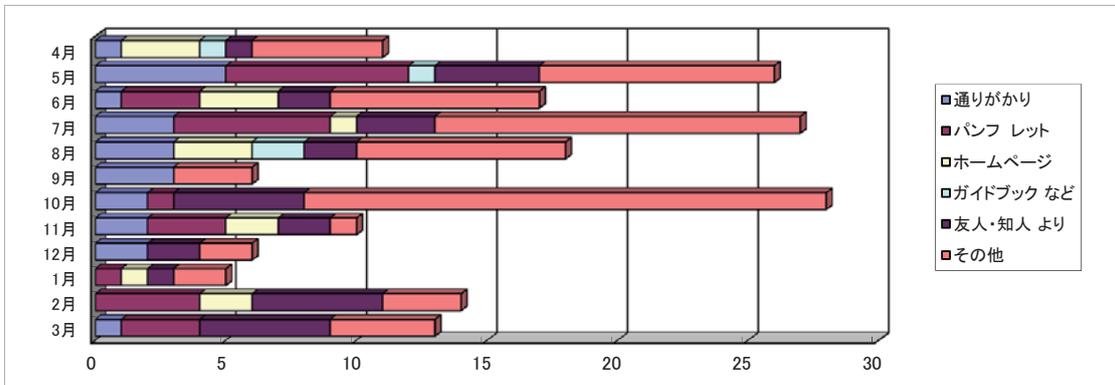


●一般内訳

- | | | | |
|-------|---------|-----------|-------|
| (4月) | (7月) | (10月) | (12月) |
| ・会社役員 | ・著述業・歌人 | ・卒業生(理・化) | ・会社員 |
| ・教員 | | ・シルバーカレッジ | |
| | (8月) | ・MFA | (2月) |
| | ・主婦 | | ・大学教員 |

Q 1 どのようにして当館をお知りになりましたか？(複数回答可)

	通りがかり	パンフレット	ホームページ	ガイドブックなど	友人・知人より	その他
4月	1	0	3	1	1	5
5月	5	7	0	1	4	9
6月	1	3	3	0	2	8
7月	3	6	1	0	3	14
8月	3	0	3	2	2	8
9月	3	0	0	0	0	3
10月	2	1	0	0	5	20
11月	2	3	2	0	2	1
12月	2	0	0	0	2	2
1月	0	1	1	0	1	2
2月	0	4	2	0	5	3
3月	1	3	0	0	5	4
合計	23	28	15	4	32	79

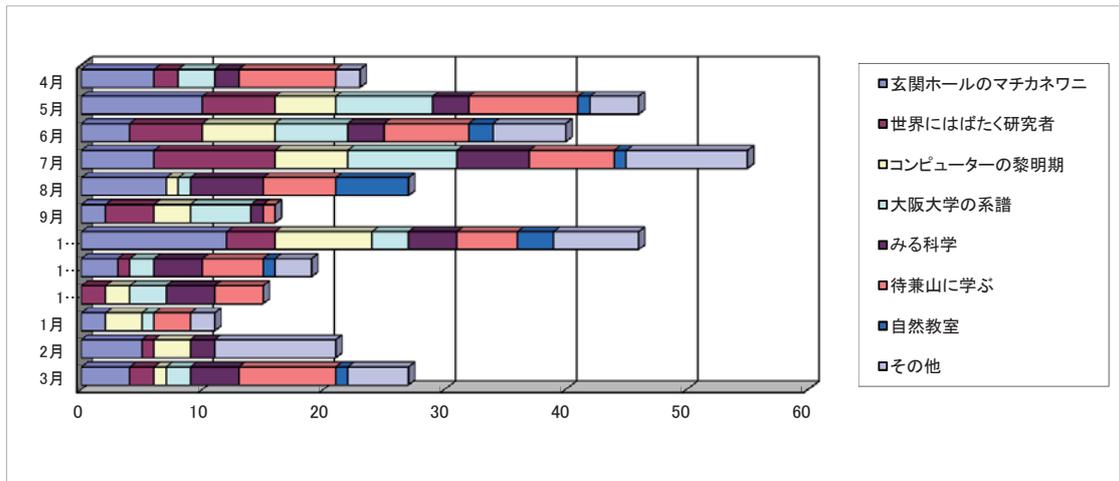


●その他内訳

- | | | |
|-------------------------|-----------------|----------|
| (4月) | (7月) | (11月) |
| ・ネットでマチカネワニを検索して知った | ・朝日新聞(2件) | ・維新派のチラシ |
| ・一昨年吹田市立博物館の江口先生の講義を聞いて | ・NHKテレビ・インターネット | |
| ・新聞記事(S12.モダン都市へ) | ・新聞(2件) | (12月) |
| ・当大学よりの案内 | ・モノレール蛍池のポスター | ・公開講座受講 |
| ・家族 | ・テレビ | ・阪大見学 |
| | ・孫が卒業 | |
| (5月) | ・TV? | (1月) |
| ・案内状をいただきました | ・小学生新聞 | ・駅ポスター |
| ・いちよう祭案内 | | ・C-Work |
| ・家族の母校案内をもらった | (8月) | |
| ・学生の親 | ・子ども会(4件) | (2月) |
| ・もとの勤務大学 | ・初めて知った | ・ポスター |
| ・宇治歴史資料館でみました | ・兄弟 | ・日本化学会誌 |
| ・既に | | ・DM |
| ・市立図書館パンフレットコーナーより | (9月) | (3月) |
| ・婦人会のお茶お話で知りました | ・聞いていた | ・ポスター |
| ・橋爪先生よりおすすめ | ・高校のPTA研修旅行 | ・新聞 |
| | | ・大学で |
| (6月) | (10月) | ・案内状 |
| ・元々知っていた | ・旅行 | |
| ・ポスター | ・チラシ | |
| ・博物館関係者からのお誘い | ・館からの郵送のご案内 | |
| ・新聞記事 昭和12年のモダン都市 | ・学校(2件) | |
| ・朝日新聞 | ・学校の手紙(2件) | |
| ・前からいききたいと思っていた | ・みなさくこども教室 | |
| ・新聞 | ・手紙(8件) | |
| ・ピラ | ・パソコンか本かチラシ | |

Q 2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数回答可）

	1階			2階		3階	R階	その他
	玄関ホールのマチカネワニ	世界にはばたく研究者	コンピューターの黎明期	大阪大学の系譜	みる科学	待兼山に学ぶ	自然教室	
4月	6	2	0	3	2	8	0	2
5月	10	6	5	8	3	9	1	4
6月	4	6	6	6	3	7	2	6
7月	6	10	6	9	6	7	1	10
8月	7	0	1	1	6	6	6	0
9月	2	4	3	5	1	1	0	0
10月	12	4	8	3	4	5	3	7
11月	3	1	0	2	4	5	1	3
12月	0	2	2	3	4	4	0	0
1月	2	0	3	1	0	3	0	2
2月	5	1	3	0	2	0	0	10
3月	4	2	1	2	4	8	1	5
合計	61	38	38	43	39	63	15	49



●その他内訳

(4月)

- ・総て
- ・大大阪の展示

(5月)

- ・3Fのモダン都市(2件)
- ・ミュージアムレクチャー

(6月)

- ・大大阪観光(2件)
- ・けんび鏡
- ・観光映画「大大阪観光」
- ・特別展示 昭和12年のモダン都市
- ・特別展

(7月)

- ・大大阪展(3件)
- ・モダン都市
- ・特別展大大阪(2件)
- ・特別展
- ・屋上
- ・大大阪も
- ・昭和12年のモダン都市

(8月)

- ・特にワニ

(10月)

- ・特別展示 ろじ式
- ・特別展のようなもの
- ・ダンス in BIWA LAKE
- ・カフェ(2件)
- ・トイレのこうぞう

(11月)

- ・維新派という現象
- ・維新派
- ・カフェとショップ

(1月)

- ・漆の再発見(2件)

(2月)

- ・漆のコーナー
- ・漆の化学(2件)
- ・漆の再発見(4件)
- ・漆の展示
- ・うるし(2件)

(3月)

- ・全体
- ・うるしの再発見
- ・漆の再発見(2件)
- ・漆

Q3 来館は何回目ですか？

	はじめて	2回目	3回目	4回目以上	無回答
4月	8	1	0	1	0
5月	15	4	0	3	0
6月	13	1	0	2	0
7月	18	4	0	2	0
8月	12	3	0	1	1
9月	4	1	0	1	0
10月	25	2	0	1	0
11月	5	1	1	2	0
12月	5	0	0	1	1
1月	4	0	0	0	0
2月	6	4	2	1	0
3月	8	2	1	1	0
合計	123	23	4	16	2

Q 当館の展示についてご意見やご要望をお聞かせください。

(※記入のあったものの一部について誤字を改めた以外は、原文のままの収録とした。)

● 4月

- ・ たのしかたです。
- ・ もう少し大きくしてほしい
- ・ 本日は、マチカネワニに関して展示があるとのことでしょうかいきました。他展示はあまり拝見できませんでしたが、こんなすばらしい博物館がある事、もっと広く宣伝するべきだと思いました。
- ・ 初めて伺いました。こんなに素晴らしい博物館、ミュージアムが近くにありながら、今まで来なかった事をくやみました。やはり、マチカネワニ、玄関ホール、そして3F。3Fの豊中市の航空写真もよかったし、里山を取りあげられているのもいい。ミュージアムショップも充実しているし、ミュージアムカフェの味、スタイル、清けつさも GOOD 今日、たまたま仕事があり来たが、出来れば日曜とはいわないう年に数度の祝日にでも開けて欲しい。
- ・ 「大大阪」展は「昔はよかった」的でなく←えてしてこのようなほめるだけの展示が多い 表と裏を知らせようとしているのに、博物館の姿せんに好印象を受けた。
※ 「いちょう祭」5/1.2のパンフレットが無かったのが残念。
- ・ 充実していて大変良かった PRの必要有（殆んどの人が知らない）
- ・ 特別展が非常におもしろかった。あの映画「大大阪観光」をNHKで流してもらえよう働きかけてほしい。

● 5月

- ・ すばらしい展示に感動しました。
- ・ 昨秋中之島センターでの「大大阪」の講演を聞いていたので、興味深く「モダン都市へ」を見れました。
小学校～大学まで大川をさか上る方向で学んだ昔の記憶の風景もよみ帰り、高校しか残っていないのですが、その昔の校舎が府庁のとなりに写っている写真や、映画を見てなつかしく思いました。「本みやげ」など同級生のやっている料亭の古いパンフレットもありました。
- ・ 中央階段がそのままになつかしい思いでした。カフェがオープンで良かったです。
- ・ 色々とおもしろい。学術研究の心に役立つ。
- ・ ワニのぬいぐるみを作って売ってほしい。
- ・ 展示がよく整備されていて、よく分かります。
- ・ R 階の吹田キャンパスの植物のビデオのバックグラウンドミュージックが気に入った。

- ・ 大阪府、市の政治のそうかつをしてほしい（展示で）
- ・ 展示物のより一層の発展を期待する。
e.g. Oxford Univ. Cambridge Univ.の博物館と比べられたし
- ・ とても居心地良く、また知的好奇心あ刺激される空間でした。
緑豊かな環境も心癒されました。
- ・ 今回の展示は、年代柄なつかしきで胸が一杯になりました。
- ・ 「モダン都市へ」の展示は、よくできていると思います。ただ、説明文（特に展示品の小ディスプレイ）の照明が暗く、文字が読み取り難く、改善されればと感じました。
- ・ 新装なった博物館は展示に工夫され、見学が楽しくなっている。小学生向の解説にもう少し配慮して欲しい。
- ・ ちょっと散歩気分で来ました 丁度2時すぎで3Fにて「モダン都市」を学ばせてもらいました 大変たのしい散歩でした ケーキセットもおいしかったし又再びいきたいと思っています。
- ・ ワニは床に置いた方が迫力があっていいと思います。
- ・ 大阪大学学章入りの傘を販売して頂きたい。綿 100%にて、ハンドルは1本木を希望。安っぽい作りはいけません。
- ・ チラシを送ってもらえるので嬉しいです。
- ・ とてもよかった 私は大阪に生まれ育った 子供頃は少し異動があったが東京で戦災 6月大阪で戦災その後福井県で疎開生活一年程後大阪にずっと住んでいますので、とてもよかった分がありました。
- ・ ビルディングのレクチャーはおもしろかったです また参加したいです
- ・ 阪大の OB です。とても興味深かったです。ミュージアムレクチャーや企画展示、カフェの利用も含め今後何度も訪れたいと思います。
阪大のこのような活動は素晴らしいと思いますし、展示・企画、職員さん学芸員の方々も「大学」ばいカタ苦しさが少なくとてもいいと思いました。今後ともがんばって下さい。

● 6月

- ・ 次回から大阪大学セミナーの案内を送って欲しい。
- ・ カフェのランチがとてもおいしかったです!! 勉強になりました。
- ・ 昭和 40 年代から約 20 年間コンピュータのプログラム (COBOL) 作成、システム設計オペレーションに携わったが、戦後早い時期に開発に努力され、しかも完成間近でトランジスタ式を導入せざるをえなかった無念をと、基礎をきづかれた功績が伝わってる。
- ・ 次回の催しも期待しています。

- いろんな機会を通してPRをすべきではないでしょうか。宝の持ち腐れになってしまう。もっと積極的な汎用利用をした方がいい。ともかく、一度でも足を運んでもらうこと、楽しめる企画を今後も検討してほしい。
- 特別展、モダン都市（S12年は私の生まれた年）モノレール柴原から正面玄関（？）を入ったのですが、展示会場への経路等の案内が不親切で学内で、3回たずねてようやくたどり着きました。開かれたキャンパスの為には、外来者への思いやりを・・・。
- 建物が一番興味深かったです。もっと宣伝したらどうでしょうか、全く知りませんでした。
- けんぴ鏡がおもしろい。（小さい物がハッキリみえてびっくり）
- イベントなどを広く知らせてほしい
- S12年のモダン都市展は、非常に興味深く、また懐かしく勉強になりました。「大 大阪観光」のフィルム上映も貴重で大変参考になりました。昭和12年前後の文化・社会状況を垣間みる珍しい映像で、もう一度か二度観たいと思いました。展示のご苦勞に感謝します。有難うございました。このシリーズも大いに期待しております。

敬具

- 阪大所有の考古資料なども展示してほしい
- 悪くなかったと思う。今後は、いささか風変わりですが、世界的なUFOの写真展や資料展も面白いかもしれません。以前、本でマウリッツオ・カヴァーロのUFO写真や絵画、音楽がヨーロッパで評判の事を読んだことがあります。そうした人の写真展・絵画作品の展示も面白いかもしれません。
- 阪大の紹介（学生募集のブックレットを見たことがあるが、ここではそれを置いておく必要はないか、又阪大に関係ない人が来ることはないであろうか。
- 教養後、京橋（工学部）にいったので、ここは1年半だけ通ったことになる、もう60年前!!それから、はじめて訪れた、池の南の進駐軍のハイツあとは樹木が茂って全く状況が異なっていた。道は巾広くなっているし、浪高の建物は当時は空シユウをさけるため墨が塗られていた。総合学術博物館は、さらに充実して下さい。
- 昔のよき大阪を思い出させて頂き 有難うございました。
- 開館を前倒しにさせていただいて恐縮です。ですが、10時開館にならないものでしょうか。10時半からの開館だと昼からの予定にはさしさわりのゆっくり見ることが出来ません。1日1イベントなんて優雅な生活を送れる身ではないのでよろしくお願ひします。
- 10時45分上映開始に10時45分に係が来るのでは遅いと思います。上映時間前に試写、そして確認しておくのが上映する側の当然の仕事だと思います。
- 博物館への飲食持込禁止をうたう博物館が書籍を飲食物と同じレジカウンターで、飲食物・水を扱った同じ手で販売するのは戯画としては傑作だが、書籍購入者はたまらない。「そうか、阪大は本をそういうふうに扱う大学なのか」と思われるので

はないですか？

● 7月

- ・ 今後（秋口も）も開催願います
- ・ このようなもようしが有る事を知りとても嬉しかったです。周囲も静かで一日伸びり出来ました。緑を背景に音楽界をして下さると良いと思いました。
- ・ 今後も、来たい、もっとアピールするべきだ
- ・ 展示室での大声のケータイ通話は止めてほしい。東京の博物館・美術館では、入口や入場券を切る所で、一人一人にケータイは電源を切るよう告げている。京都や大阪では、各所でケータイ通話がまかり通っている。入場者数が少ないと、マナーも育たないのであろうか。たとえよびかけても、電源を切れない人はいると思うが、自宅の茶の間ではない、通話はしてはいけないと示すことが必要ではないかな。
- ・ パンフレットの案内地図が判りづらく1回目は大変遠まわりをさせられた。地図の方位、目印地名が一切ないのは地図とは云えない。
- ・ 沢山の資料と、昭和初期の大阪を、より深く知ることが出来、良い企画だったと思う。
- ・ 広く宣伝してください、楽しかったです。
- ・ モダン都市の企画展とってもよかったです。次回を楽しみにしております。
- ・ 大阪の昔の風景が懐かしい 大大阪の再登場を祈る
- ・ 流れている BGM が私の気持ちを落ち着かせてくれた。感謝。最近では静かな音楽がお気に入りであります。（洋の東西を問わず）これからも阪大らしさを大切に持ちつづけてくださいますよう . . .
- ・ なぜ、私は、4回以上も、ここへ足を運ぶのだろうか。それは、1回毎に、「発見。」があるからで、ある時は、「やすらぎ。」であり、また、ある時は、「閃き。」であり、という風に、待兼山修学館は、来る度に、違う顔を、私に見せてくれます。その「今日は、何か、また、新しいことを学べる。」という意識が有るので、“無意識の意識として”、ここへ、来るのだと思っています。「1回来たら、もういい。」という所は、本物の博物館ではないと思いますね。1Fの真空管計算機は、いつ見ても、心が、落ち着きます。無機質なものは、一見、人間を、つきはなしている様ですが、計算に、裏付けられた、美しさというものは、ひきつけられる者、にとってはたまらない、魅力です。これぞ工業デザインの美しさ。私は学外ではありますが、それもまた人間がつくった、我々の人生の先輩方の英智のたまもの、であるからこそ、真空管の奥に、ほっとする、あたたかみを、我々は感じているのかも知れませんね。「キャンパスに咲山花 豊中編」買いました。2〜3ヶ月前ごろです。ほっとしますね。
- ・ 阪大ってめっちゃ歴史あるなあ、と思いました

- ・ おもしろかった
- ・ またきてみたいです。

● 8月

- ・ すごいです
- ・ マチカネワニがすごく大きくてびっくりした。
- ・ マチカネワニが大きかった。
- ・ マチカネワニがすごかった。
- ・ マチカネワニのことをしれてうれしかったです。
- ・ もっとおもしろい展じをしてほしいです。それと、分かりやすくしてほしいですけど、まあまあおもしろいところも、ありました。
- ・ 自分は双がんきょうが好きだったのでみる科学が1番楽しかったです。
- ・ 待兼山に学ぶのコーナーでもっとたくさんの昆虫等を置いてほしいです
- ・ 近くに、無料のこのような博物館があることを初めて知りました。ぜひまた来たいです。
- ・ いろいろなことが展示されていて、いろいろなことを知ることができてよかったです
- ・ 前は マチカネワニ実物を見られなかったので来ました。今日は見るのができてよかったです。
- ・ 施設がだいぶ綺麗になっていて快適です。
- ・ 毎年 中を見てみたいです。
- ・ ワニのほねが大きくてはく力があつた。
- ・ すごくたのしくて、べんきょうになりました。

● 9月

- ・ 素晴らしい環境にありますね。大変勉強になりました。
- ・ 日本の科学の発展や阪大のそれへの貢献がよくわかる有意義な展示でした。カフェも含め、館内雰囲気もよく快適でした。科学への興味をそそられました。また、来たいと思いました。
- ・ 本学出身です。いい博物館は、私の誇りです。孫たちを連れ再度来たいです。
- ・ 大阪大学の系譜がよくわかった。

● 10月

- ・楽しかった。興味深い。
- ・呼吸機械の参加者です（ワークショップ出演）東京の展示を見ることができなかつたので、ここで見られてうれしいです。
- ・今後もサブカルチャー的な大学があまりとりあげなかった分野の展示があるとおもしろく思いました。
- ・ Good
- ・ 1Fのトイレが少々せまいと感じました。出入りの取手は、ハンドル式の方が良いです。まわす式は使いにくいです。
- ・ あんがい面しろかったです。
- ・ いりぐちのおじさんがこわかった。
- ・ 入口のおじさんがはだ黒くてこわかったです。（目も）
- ・ ワニがとても魅力的でした。真空管の電たくもすごいです。
- ・ とても興味深かったです。GREAT！
- ・ いろいろなマチカネワニを見ておもしろかったです。また行来たいです。「ろじ式」がちょっとこわかったです。
- ・ マチカネワニのか石ハ少しつるつるしてしましタ。いろいろナワニがいろんだナァと思いましタ！また行来たいです。「ろじ式」がとてもこわかつタです。いろいろありがとうございます。
- ・ たのしかった。〈^□^〉
- ・ 楽しい
- ・ たのしかったです。
- ・ たのしかった。
- ・ いろんな物があつておもしろい。
- ・ 楽しかった。
- ・ しらねえよ。
- ・ 実物のマチカネワニのか石が見れたとてもためになりました。
- ・ ほかはしらねえよ（うソ）
- ・ 私は化石とか好きなので、ワニの展示に、とても興味をもちました。BUT!!お腹がとてもすいたし、今日に限って、ローファーがとても足に合いませんでした。
- ・ ここ好きです！
- ・ 捨った石、こうげい品の展示をよろしこ！すいません。ふざけた感じになりましたが、石は本当にすきです。
- ・ もう一度来たいです。
- ・ 始めてだから、おもしろくて、もう一度行きたいと思った。楽しくて、うれしかった。

- ・ とてもべんきょうができたと思う
- ・ ワニとかがはく力があっておもしろかった。

● 11月

- ・ ノイチの実物が見られて良かったです。その他の展示品もすばらしかった。友人が阪大生だった。知らなかった
- ・ こんな風に一般の者でも大学に入れる機会をもっと作ってほしいです 図書館とかもいいな・・・とても面白かったので、ずっとずっと続けてください ありがとうございます
- ・ たのしかたです これからどよびにきますまたね ちほより
- ・ 全体的な案内書（有料パンフ）を作成するか、せめてHPの充実を（今のホームページは望しいとはいえない）各階（なるべくコーナー毎）のリーフレットを用意して欲しい・予算の関係もあるのだろうが、最新的话题をとりあげている展示物が少ない。パネルやビデオ等を活用して補足する必要があるのでは・販売物でも、たとえばマチカネワニは、骨だけの写真であれでは人に見せても何かわからない、表紙に解説と、復元日を収録してもらいたい 展示物に、分野的な偏りがあります。医学系の展示が少しは必要に思えますが。
- ・ いろいろなイベントがあれば来たいです。

● 12月

- ・ 初めて来て、とてもおもしろかった。また時間が有る時、来てみたい。
- ・ またこんどげきおやってください みてます ちほより まほより
- ・ **TO ATTRACT MORE VISITORS, THE MUSEUM SHOULD BE HIGHLIGHTED IN THE UNIVERSITY PAMPHLETS. IT WOULD SERVE VISITORS ENTER TO HAVE ENGLISH VERSION OF TEXT NEAR DISPLAYS. EXCELLENT ARRANGEMENT OF EXHIBITS**
- ・ 大変学ぶことが多く 再訪館したい
- ・ 映像が多くて わかりやすかったです。

● 1月

- ・ 大変良かった。
- ・ 通常の博物館などではない、化学の観点からの展示だったが、漆のことを興味深く拝見できました。
- ・ “坂”のスタッフの方が親切でした

● 2月

- ・ 漆の展示が非常におもしろかった。化学の基礎と伝統工芸の関係わかりました
- ・ 現在のコンピュータに致るまでの歴史を紹介されていてよかった。
- ・ 科学的な背景と漆という日本の伝統技術・工芸を併せての展示は他ではあまり見かけたことのない、興味深いものと思いました。
- ・ フロア案内から分かりにくい 各学部にはほかにも文化財がうもれているはず
- ・ 漆化学がよくわかって面白かったです。日本では、生産量少なく、大陸からの輸入が多いと聞いています。品質面で差はないのでしょうか。(化学構造的差異)
- ・ 漆を化学の視点から見るのは 理系の大学ならではだと思いました。
- ・ 展示物に関して参考文献などがあれば 御教示頂きたい。
- ・ わかりやすく展示され、勉強になりました。
- ・ (あそぶ) (こうさく) のきょうしつをひらいてほしいたとえば「あそびいっぱい」きょうしつ
- ・ 質問：万葉集に「黄染」と云う言葉と「きいぞめ」「にいぞめ」を解説されていますが「染」はうるしのことで染ではないと思います。すると「黄染」とは「黄色いうるし」となるのですか古代にはあったのでしょうか

● 3月

- ・ 医療短大 卒業生です。学生時代 ここに教授室があったり、実験室もありました 展示も、そして建物を残していただいております。
- ・ 近くに このような、場所があるとは知りませんでした。また、何かありましたら来たいと思います。
- ・ 館全体の存在をもっと外に知らせて下さい。阪急石橋駅で場所を訪ねても知りませんでした。梅田駅等にポスターを貼るなりして、知らせて下さい。
- ・ エキセントリック振盤装置が気になって仕方ありませんでした。これが大阪クオリティなのかしらと妙に感心しました。
- ・ 企画展を見に来ましたが、化学的な展示もたくさんあり、とても興味深かったです。
- ・ 初めて参りました。「漆の再発見」を、みたくて来たのですが全室、ゆっくりみせて頂きました。・ 漆の作品を仕上げるまで、たいへんな工程を何度もくり返すのに驚きました 手にとって比較できたのもよかったです。・ 市内に住み阪大に勤める親族もいたのに、阪大の全体像に不案内でしたのでとてもよかったです。12時に参り5時までいました。又参りたいです。
- ・ 適塾についてももう少しわしく知りたい。世界を、日本をけん引してきた阪大は本当にすごいと思った。これからも頑張ってください。
- ・ 阪大について知ることができ良い時間になりました。

4.7 団体見学等一覧

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明教員等
1	平成 21 年 4 月 2 日	木	旧制浪速高等学校第 20 回同窓会	15	
2	4 月 13 日	月	第 5 時限の授業（高杉先生）	126	
3	4 月 17 日	金	平成 21 年度「博物館体験コース」授業	32	江口
4	4 月 23 日	木	鳥取県米子市立弓ヶ浜中学校	10	上田
5	4 月 25 日	土	理学部オプション授業（中嶋先生）	15	
6	4 月 27 日	月	授業「地球科学」（竹村先生）	80	
7	4 月 27 日	月	博物館授業（橋爪先生）	45	
8	5 月 7 日	木	博物館授業（橋爪先生）	9	
9	5 月 15 日	金	機関紙『道修町』取材及び見学	7	江口
10	5 月 16 日	土	阪大物理（昭和 39 年入学）同期会	20	
11	5 月 20 日	水	タイ・タマサート大学職員育成プログラム	46	江口 / 上田
12	6 月 6 日	土	桜井谷公民分館	47	高橋
13	6 月 6 日	土	映画「大大阪観光」レクチャー近代大阪美術研究会		橋爪
14	6 月 22 日	月	宝塚市光明町老人クラブ（担当者 竹内浩）	10	
15	6 月 23 日	火	相愛大学人文学部日本文化学科・3ゼミ	28	廣川
16	6 月 27 日	土	大阪大学医療短期大学部 5 期生	15	
17	7 月 4 日	土	刀根山地域こども教室	15	江口
18	7 月 8 日	水	社団法人近畿化学協会 化学教育研究会	20	江口
19	7 月 11 日	土	映画「大大阪観光」鑑賞レクチャー大正イマジュリィ学会第 17 回研究会		橋爪
20	7 月 23 日	木	学校法人広島城北高等学校	27	
21	7 月 23 日	木	京都府立福知山高等学校文理科学科 1 年生	43	豊田
22	7 月 25 日	土	医療・身体・環境研究会	10	廣川
23	7 月 29 日	水	福井県立大野高等学校	50	横田
24	8 月 5 日	水	外院の里こども会	25	江口
25	8 月 6 日	木	茨木市立西陵中学校科学部	13	
26	8 月 8 日	土	五月山児童文化センター	8	横田
27	8 月 8 日	土	兵庫県立相生高等学校育友会	46	上田
28	9 月 4 日	金	関西地区国立大学工学部長懇談会	17	江口
29	9 月 15 日	火	経営協議会委員の見学	20	江口
30	9 月 15 日	火	大阪府立高津高校 PTA	74	
31	9 月 28 日	月	マレーシア教育省教員養成局長一行	5	江口
32	10 月 1 日	木	鳥取県立八頭高等学校 2 年 5 組	45	
33	10 月 8 日	木	阪大理五三会（大阪大学理学部新制回化学科クラス会）	22	江口
34	10 月 9 日	金	大阪府立住吉高等学校	100	廣川
35	10 月 9 日	金	大阪府立天王寺高等学校	50	上田
36	10 月 13 日	火	兵庫県阪神シニアカレッジ健康福祉学科 2、3 年生	76	高橋
37	10 月 15 日	木	三十機会（昭和 30 年機械工学科卒業生同窓会）	20	
38	10 月 16 日	金	KIK 研究会	30	橋爪

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明教員等
39	10月16日	金	JICA 研修団 (アフリカ諸国 政府関係技術者 建設関係)	14	橋爪
40	10月21日	水	兵庫県阪神シニアカレッジ健康福祉学科1、4年生	74	高橋
41	10月21日	水	豊能町立西公民館講座	32	廣川
42	10月26日	月	岡山県立岡山一宮高等学校	45	江口
43	10月27日	火	兵庫県立宝塚東高等学校1年生	25	廣川
44	10月31日	土	大阪薫英女学院高等学校 普通科1年	97	江口 / 廣川
45	10月31日	土	みなさく子供教室	22	江口
46	11月14日	土	日本動物学会近畿支部会	20	常木
47	11月17日	火	大池小学校 PTA	25	
48	11月18日	水	吹田市立小学校教育研究会理科部会	20	豊田
49	11月18日	水	文部科学省研修生	3	江口
50	11月25日	水	報徳学園高等学校	59	
51	11月25日	水	海外来校客案内 (薬学部)	3	
52	11月27日	金	兵庫県立宝塚北高等学校	42	
53	12月5日	土	コタニ化学工業株式会社	9	
54	平成22年1月30日	土	JST サイエンスパートナープロジェクト SPP プランB	40	江口
55	3月5日	金	文部科学省高等教育局国立大学法人支援課 文部科学省大臣官房会計課総括予算班	4	江口
56	3月10日	水	大阪青凌中学・高等学校	40	
57	3月12日	金	ミュージアム探険隊	15	江口
58	3月18日	木	HRC 会	20	廣川
59	3月24日	水	池田市役所 市民生活部 観光・ふれあい課	4	江口
60	3月31日	水	仙台市議会議員「改革・ネット自民」会派行政視察	5	江口

計 1839 人

4.8 待兼山修学館 3 階セミナー室使用状況一覧

No.	月日	曜日	行事又は集会名	人数
1	平成 21 年 4 月 4 日	土	サイエンスカフェ No.26	19
2	4 月 7 日	火	サイエンスカフェ No.27 打合せ	13
3	4 月 8 日	水	共通教育の授業	9
4	4 月 8 日	水	薬学研究科「薬用資源学」大学院講義	15
5	4 月 9 日	木	生命理学コース基礎演習	27
6	4 月 10 日	金	初任者研修 (10/16) の為の機器動作確認等	5
7	4 月 11 日	土	待兼山史友会総会	30
8	4 月 11 日	土	サイエンスカフェ No.27	9
9	4 月 16 日	木	初任者研修	40
10	4 月 17 日	金	平成 21 年度「博物館体験コース」授業	32
11	4 月 18 日	土	Handai-Asahi 中之島塾の講座 (福井先生)	25
12	5 月 2 日	土	第 11 回 ミュージアムレクチャー (第 4 回特別展関連イベント)	70
13	5 月 9 日	土	第 12 回 ミュージアムレクチャー (第 4 回特別展関連イベント)	60
14	5 月 16 日	土	第 13 回 ミュージアムレクチャー (第 4 回特別展関連イベント)	27
15	5 月 30 日	土	第 14 回 ミュージアムレクチャー (第 4 回特別展関連イベント)	76
16	6 月 6 日	土	第 15 回 ミュージアムレクチャー (第 4 回特別展関連イベント)	98
17	6 月 16 日	火	維新派との打合せ (第 9 回企画展関連)	10
18	6 月 26 日	金	基礎セミナー「博物館体験コース」授業	30
19	7 月 7 日	火	全国同時七夕講演会	30
20	7 月 8 日	水	近畿化学協会化学技術アドバイザー会 【4F 自然教室】	20
21	7 月 11 日	土	サイエンスカフェ No.28	20
22	7 月 22 日	水	日食観測会 in 大阪大学	56
23	7 月 25 日	土	サイエンスカフェ No.29	29
24	8 月 8 日	土	サイエンスカフェ No.30	29
25	8 月 22 日	土	サイエンスカフェ No.31	16
26	8 月 24 日	月	夏の小学生科学体験教室	27
27	8 月 25 日	火	夏の小学生科学体験教室	27
28	8 月 26 日	水	夏の小学生科学体験教室	26
29	8 月 27 日	木	夏の小学生科学体験教室	11
30	8 月 29 日	土	サイエンスカフェ No.32	27
31	9 月 4 日	金	関西地区国立大学工学部長懇談会	17
32	9 月 5 日	土	サイエンスカフェ No.33	25
33	9 月 19 日	土	サイエンスカフェ No.34	26
34	10 月 8 日	木	団体見学説明対応 (阪大理五三会)	22
35	10 月 10 日	土	サイエンスカフェ No.35	24
36	10 月 16 日	金	KIK 研究会	30
37	10 月 17 日	土	サイエンスカフェ No.36	10
38	10 月 31 日	土	団体見学 (大阪薫英女学院) 説明対応	97

No.	月日	曜日	行事又は集会名	人数
39	10月31日	土	サイエンスカフェ No.37	22
40	11月2日	月	第16回 ミュージアムレクチャー (第9回企画展関連イベント)	54
41	11月3日	火	第17回 ミュージアムレクチャー (第9回企画展関連イベント)	58
42	11月7日	土	第18回 ミュージアムレクチャー (第9回企画展関連イベント)	80
43	11月14日	土	放送大学面接授業 (大学博物館と教育・研究)	40
44	11月21日	土	放送大学面接授業 (大学博物館と教育・研究)	40
45	11月28日	土	シンポジウム「維新派とその時代」 (第9回企画展関連イベント)	80
46	12月5日	土	研究会「絵画と文学に表象される、時間と空間の脳による認識」	45
47	12月12日	土	スピノザ協会 定例研究会	20
48	12月19日	土	サイエンスカフェ No.38	17
49	平成22年1月9日	土	サイエンスカフェ No.39	26
50	1月16日	土	サイエンスカフェ No.40	21
51	1月23日	土	サイエンスカフェ No.41	8
52	1月30日	土	科学技術振興機構支援サイエンスパートナープロジェクト講座型学習活動 (SPP プランB) における大阪大学総合学術博物館見学会	40
53	1月30日	土	サイエンスカフェ No.42	31
54	2月3日	水	スペシャル対談 (第10回企画展関連イベント)	100
55	2月6日	土	第19回 ミュージアムレクチャー (第10回企画展関連イベント)	75
56	2月6日	土	第20回 ミュージアムレクチャー (第10回企画展関連イベント)	71
57	2月13日	土	サイエンスカフェ No.43	24
58	2月20日	土	第21回 ミュージアムレクチャー (第10回企画展関連イベント)	84
59	2月20日	土	第22回 ミュージアムレクチャー (第10回企画展関連イベント)	100
60	2月27日	土	汎神論論のスピノザ	30
61	3月6日	土	サイエンスカフェ No.44	7
62	3月12日	金	ミュージアム探険隊	15
63	3月13日	土	サイエンスカフェ No.45	24
64	3月20日	土	サイエンスカフェ No.46	30
65	3月26日	金	蛋白質研究所、高校生向けセミナー (第1日目)	30
66	3月27日	土	蛋白質研究所、高校生向けセミナー (第2日目)	30
67	3月31日	水	仙台市議会議員「改革・ネット自民」会派行政視察	5

計 2371人

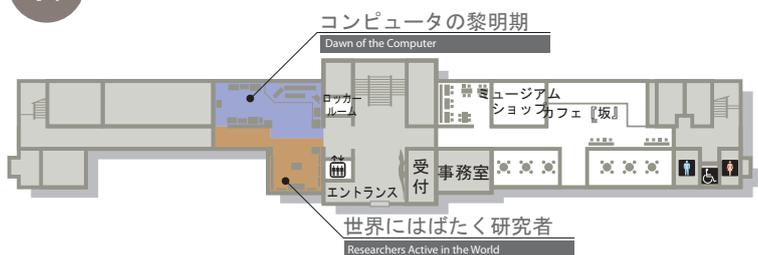
5. 館内配置図



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

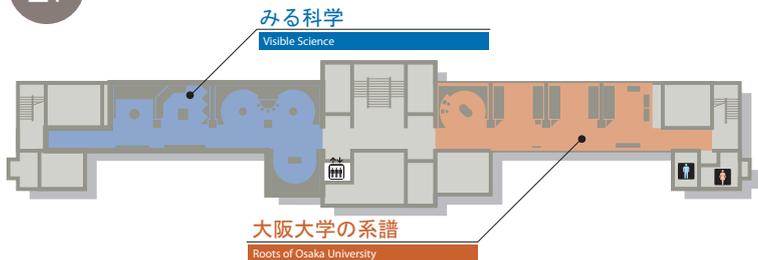
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆者だった研究者たちを紹介しています。

世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

ミュージアムカフェ「坂」 Museum Cafe 'SAKA'

2F



みる科学 Visible Science

みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高压電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大坂市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F

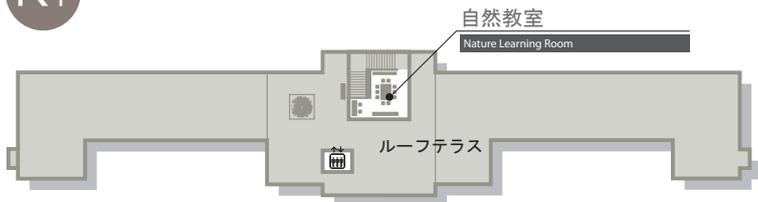


待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



自然教室 Nature Learning Room

自然教室&ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

6. 寄贈図書一覧

No.	寄贈者	書名
1	和泉市久保惣記念美術館	浮世絵版画秀鑑
2	和泉市久保惣記念美術館	久保恒彦父子コレクション第二期浮世絵版画江戸絵編
3	和泉市久保惣記念美術館	久保恒彦父子コレクション第二期浮世絵版画上方絵編
4	大阪城天守閣	テーマ展 いくさ場の光景
5	大阪城天守閣	徳川時代大坂城関係史料集第12号大坂城代記録(四)
6	大阪城天守閣	豊臣期大坂凶屏風
7	大阪歴史博物館	特別展大阪府・大阪市指定文化財展―大阪の祈りさまざまな美の形―
8	大阪歴史博物館	聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝
9	大阪歴史博物館	天璋院篤姫
10	大阪歴史博物館	第62回式年遷宮記念 特別展 伊勢神宮と神々の美術
11	香川県立ミュージアム	静かなる情熱―藤川勇造とロダンの美
12	香川県立ミュージアム	備讃における工芸のあゆみ
13	香川県立ミュージアム	近くてなつかしい昭和展
14	鹿児島大学総合研究博物館	魚類標本の作製と管理マニュアル
15	鹿児島大学総合研究博物館	薩摩加世田 奥山古墳の研究
16	関西学院大学 博物館開設準備室	原野コレクションⅡ「EX LIBRIS(蔵書票)―夢二から現代作家まで―」
17	きしわだ自然資料館	折り紙で出会う 水のいきもの
18	九州国立博物館	九州国立博物館紀要 東風西声4号
19	九州国立博物館	市民協同型 IPM 活動に関する研究会―発表の記録と資料
20	九州国立博物館	聖地チベット―ポタラ宮と天空の至宝
21	九州国立博物館	興福寺創建1300年記念国宝阿修羅展
22	九州国立博物館	古代九州の国宝
23	九州国立博物館	新収品 '05 - '08 パンフレット
24	九州国立博物館	海のむこうのずっとむこう
25	九州国立博物館	月夜のおおさわぎ
26	九州国立博物館	もろこしのたからもの
27	九州国立博物館	京都 妙心寺―禅の至宝と九州・琉球
28	九州国立博物館	巨大掛軸をめぐる文化交流 祈りと暮らしのかたち
29	九州産業大学美術館	九州産業大学美術工芸卒業・修了秀作展 Vol.1
30	九州産業大学美術館	歴史にすわる 英国ウィンザーチェアの世界
31	京都府立丹後郷土資料館	世阿弥の時代～義満をめぐる芸能と丹後～
32	京都文化博物館	源氏物語千年紀展～恋、千年の時空をこえて～
33	京都文化博物館	読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界
34	国立民族学博物館	茶の湯のものづくりと世界のわざ 千家十職×みんなぱく
35	国立民族学博物館	アジアとヨーロッパの肖像
36	国立民族学博物館	特別展「自然のこえ 命のかたち―カナダ先住民の生みだす美」
37	国立民族学博物館	特別展「千家十職×みんなぱく」を解剖する
38	大阪歴史博物館	特別展大阪の祭り―描かれた祭り・写された祭り―
39	大阪歴史博物館	江戸と明治の華―皇室侍医ベルツ博士の眼―
40	大阪歴史博物館	大河ドラマ特別展 風林火山 信玄・謙信、そして伝説の軍師
41	大阪歴史博物館	特別展 なにわ人物誌 生誕百年人間国宝刀工 月山貞一とその一門
42	堺市博物館	特別展「仁徳陵古墳築造―百舌鳥・古市の古墳群からさぐる―」
43	たばこと塩の博物館	やすらぎのオーストリア
44	たばこと塩の博物館	研究紀要第8号 四大嗜好品にみる嗜みの文化史
45	長崎歴史文化博物館	阿蘭陀とNIPPON
46	中村貞夫	中村貞夫画集
47	鳴海邦匡	「篠山藩青山家文書」絵図目録：近世前期大坂周辺絵図
48	弘前大学	官立弘前高等学校資料目録
49	福井県立恐竜博物館	恐竜のくらしの森 恐竜は花を見たか？
50	北海道大学総合博物館	北大分類学の系譜
51	北海道大学総合博物館	TOYOJI HIKITA Photo Exhibition
52	和歌山市立博物館	エコロジーの先駆者 南方熊楠の世界

編集後記

博物館設立より8巻目となる『大阪大学総合学術博物館年報2009』をお届けできる運びとなりました。待兼山修学館展示場オープンから3年目を迎え、特別展と二度の企画展を実施して前年度を上回る来館者をお迎えすることができるなど、博物館展示において活発だった一年を読み取っていただければ幸いに存じます。

私事になりますが、私自身は2010年の4月から博物館に赴任いたしました。

2009年度に館員でなかった身としては、その活動記録である年報の編集に携わることにより多少の不安を覚えますが、博物館外部の一般読者としての心持ちで、集まった原稿に目を通しました。一方で第10回企画展には理学研究科の教員として関与したので、そのときのこととも思い浮かべますと、1年に3回もの展覧会を実施できたのは、阪大内はもとより学外の方も含めた非常に多くの方々の協力があったことであろうと、深く思い至りました。これからも博物館が多くの皆様方のご支援がいただけるのにふさわしい、知的な交流の場として魅力的なものになるように、新米館員として微力ながら貢献していきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

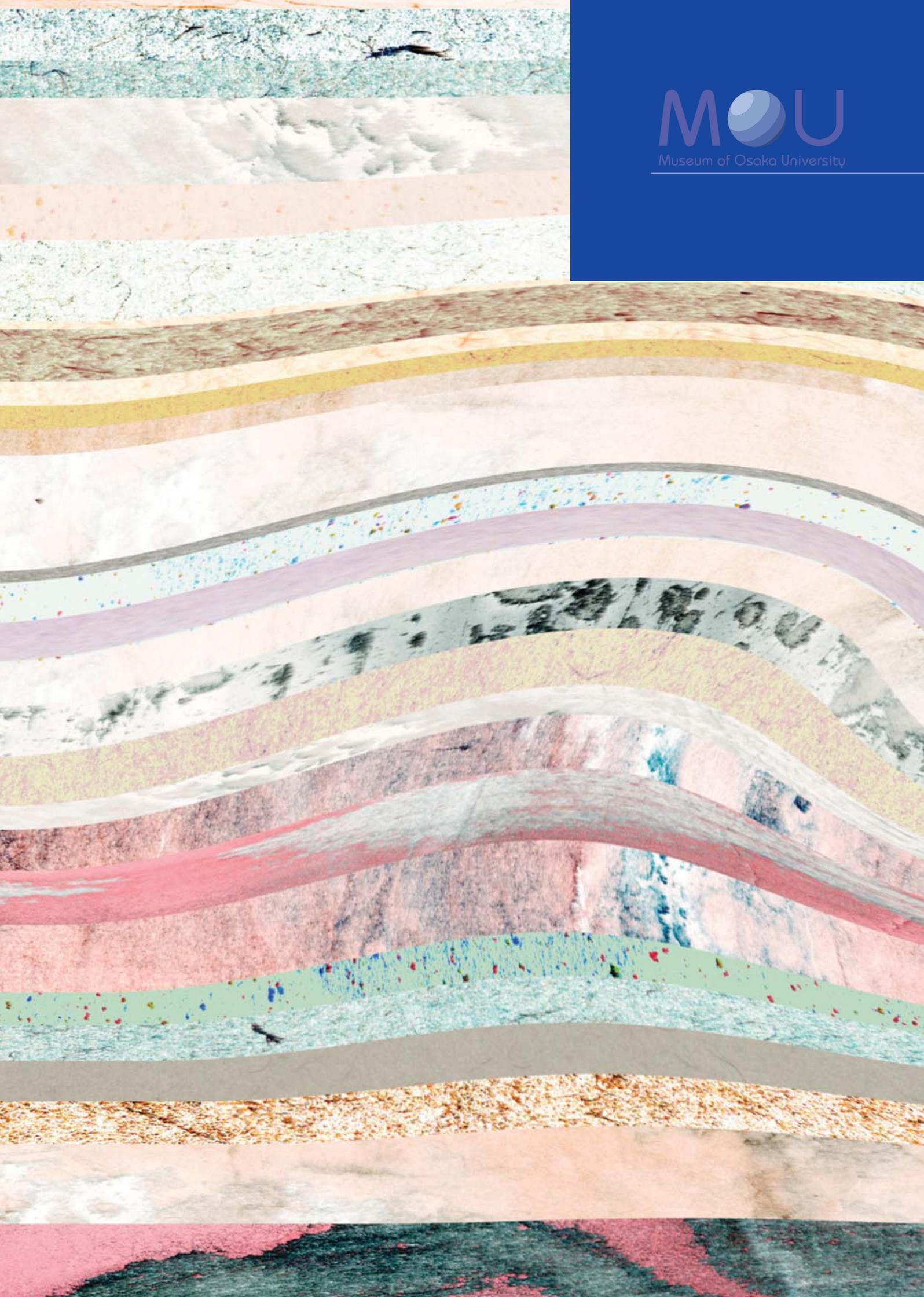
(文責 宮久保 圭祐)

大阪大学総合学術博物館 年報 2009

2010年12月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館
〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
印刷 株式会社 セイエイ印刷
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-10-33

表紙デザイン 辻村紀子 (アトリエツジムラ)



MOU
Museum of Osaka University